
第1回 アニメキャラ限定 謎解きバトルTORE!

よしかず

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第1回 アニメキャラ限定 謎解きバトルTORE！

【Nコード】

N7168X

【作者名】

よしかず

【あらすじ】

アニメキャラたちが秘宝を獲得するために、TOREにゲームに挑戦します。

今回はジャンプとマガジン・サンデーのキャラたちが激突、果たして、どちらが秘宝を多く獲得できるか・・・。

挑戦者の紹介 オープニング

今回からTOREシリーズが始まります。

もちろん参加するのはアニメキャラばかりです。

対戦するのは、週刊少年ジャンプのキャラと週刊少年マガジンとサンデーのキャラ（2つの漫画雑誌で1チーム分）

参加アニメ

ジャンプから、SKET DANCE・銀魂・べるぜバブ

マガジンから、さよなら絶望先生・生徒会役員共

サンデーから、ハヤテのごとく！・かつてに改蔵

挑戦者

ジャンプチーム SKET DANCEからボッスン（藤崎佑助）・

ヒメコ（鬼塚一愛）・スイッチ（笛吹和義）

銀魂から、坂田銀時・神楽・志村新八

べるぜバブから、男鹿辰巳（十ベル坊）・邦枝葵・古市貴之

マガジンサンデーチーム さよなら絶望先生から、風浦可符香・木

村カエレ

生徒会役員共から、天草シノ・津田タカトシ

ハヤテのごとく！から、綾崎ハヤテ・三千院ナギ

かつてに改蔵から勝改蔵・名取羽海

果たして秘宝を多く獲得し、賞金獲得に挑むのはどっちの漫画のキャラか……。

オープニング

魔宮に眠る秘宝を奪え・・・、
今夜、壮大な冒険の幕が開く・・・。

2チームに分かれて、挑戦者たちが謎解きバトル！
巨大な仕掛けくぐり抜け、秘宝を目指せ！

魔宮の中の5つの部屋を攻略せよ！
急角度に傾く部屋、容赦なく迫り来る壁、追いかけてくる石像、洞窟の中の謎、断崖絶壁の崖、果たして挑戦者はこの様々な部屋の謎を解いて、秘宝を獲れるか！？

秘宝を求める大冒険、獲れるもんなら獲ってみろ！

宝探しアドベンチャー 謎解きバトルTORE！
ジャンプVSマガジン・サンデー 人気少年漫画対抗戦スペシャル
！

挑戦者の紹介 オープニング（後書き）

作者の都合により、絶望先生からの出演メンバーを木津千里から木村カエレに変更し、編集しました。

紹介・ファラ男との会話（前書き）

ちなみに今回のTOREのスポンサーは、三千院家と丹生グループが仕切っています。

ちよっと書いて見ました（笑）

紹介・ファラ男との会話

T O R Eのスタジオに集まったジャンプチームとマガジン・サンデーチームの面々。

銀時「お前らか、サンデーとマガジンの連中ってのは。」

銀時は何もやる気なさそうに言う。

ナギ「なんだ、その言い方は！それが初めて出会ったときに言うセリフか。」

ナギは不機嫌そうな表情で言う。

ハヤテ「まあまあお嬢様、そんなことで怒らないでください。」

ハヤテはナギを止める。

ボッスン「しかしなあ、俺たちスケダンが最初のT O R Eの挑戦者の1つとはな。前のD E R Oの時と同じだな。」

邦枝「私と男鹿らのべるぜバブも最初にD E R Oに挑戦したアニメよ。一緒に出ていたじゃない？」

ボッスン「あつ、そうだったな。」

シノ「そちらが開盟学園のスケット団という者か。」

スイッチ「彼女は天草シノ、桜才学園生徒会生徒会長、成績が学年

1位、運動・料理・礼儀も完璧、しかし頭の中は思春期、下ネタでボケをかますのもしばしば、高所恐怖症などところがある。IT関連は苦手。支持率は98%・・・」

ヒメコ「説明長すぎるわ!」

音声合成ソフトでしゃべるスイッチの説明にヒメコのツッコミが入る。

シノ「しかし、スケット団もあなどれないと聞く。生徒会と互角に争った経歴があるからな。ちなみに私たち生徒会は開盟学園の生徒会でDEROで勝負をして勝った。」

それを聞いてボッスンは、

ボッスン「ええっ!あの生徒会に勝ったのか!?あの生徒会長はIQ160だぞ!その生徒会長のいるオレたちの学校の生徒会に勝ったというのか!?!」

ボッスンは驚くばかり。

タカトシ「いや、オレと会長のおかげで勝ったというわけじゃないんだけど・・・。」

タカトシはボッスンに言おうとするが、仰天するボッスンの耳に聞こえていない。

ボッスン「これは強敵が来たな・・・、だがオレたちジャンプチームが力を合わせれば勝てるかもしれないからな!絶対勝ってやるぜ!」

ボッスンは闘志を燃やす。

シノ「スケット団のお手前をこのTOREで見ようじゃないか。」

古市（ああ、あっちのチーム、女子がたくさんいていいなあ。あっちのチームに入りたい。）

古市はにやけた妄想をしていると、

神楽「おいお前、何赤くなって考えているアルか？」

神楽が古市に言った。

古市「いや、別に……。」

古市はうろたえていた。

古市（それに比べてこっちのチームは男が多くて、いやな女子ばかり……。邦枝先輩がいるのは救いだけど。）

古市はしょぼんとする。

一方新八は、

新八「賞金獲得したら、お通ちゃんへの軍資金にしたり……。あつ万事屋の借金も返さないとなあ……」

賞金の使い道を考えていた。

男鹿「よーし！いろんな部屋行って、荒らしまくるぞー！」

ベル坊「だぶ！」

男鹿とベル坊は無駄に気合が入っている。

可符香「よーし、絶対に勝つわよー！」

いつものように明るいう可符香。

カエレ「いろんなアニメのキャラばかりだけど、ちゃんとなじめるかしらね……。」

いろんなアニメのキャラの交流に不安になる帰国子女カエレ。

改蔵「いろんなアニメがあるなー。知らない間に時間が経っていたらこんなにアニメが増えていたのかー。」

自由な事を言いまくる改蔵。

羽海「私、ちゃんとできるかしら……。」

羽海はちよつと緊張しているようだ。

そしてモニターにフアラ男が現れる。

フアラ男「フアラフアラフアラファアーラオー！皆さん、よく来てくれましたね。今回はジャンプVSマガジン・サンデーの対抗戦です。」

ナギ「あれ、山里じゃないのか？」

フアラ男「山里でも山ちゃんでもありません。それよりも今回、声かぶっているキャラ多いなー。銀さんとスイッチ、神楽とナギにヒメコとハヤテ・・・。」

銀時「まあ、オレとスイッチの声は同じなのはジャンプファンでは知っている人は多いが、それよりも確かに神楽とあいつ（ナギ）の声似てるな。」

ナギ「あいつがチャイナ風にしゃべると私が不愉快に感じるな。」

神楽「お前に言われたくないでアル！」

スイッチ「声の他、わがままな所も同じ・・・。」

神楽・ナギ「大きなお世話だ！」

2人はそろって言う。

ボッスン「なんか聞いてみたら確かにヒメコとハヤテって似ているような気がしてきたな。」

ボッスンの言葉にヒメコは、

ヒメコ「あんな頼りなさそうな執事の声とアタシの声を一緒にするなや！」

それを聞いたハヤテは、

ハヤテ「た、頼りなさそうな執事って・・・。」

少し落ち込んだ。

スイッチ「いや、ヒメコの声を低くすれば、よく似るかもしれん。」

ヒメコ「お前もアタシの声で遊ぼうとするんじゃないわ！」

シノ「まあそんなことはどうでもいいとして、これは以前のDEROのように対決することということだな？」

ファラ男「その通り！2チームに分かれて対決をしてもらいます。この対決でどっちの漫画雑誌が素晴らしいのかをきめまーす！自分のアニメの漫画雑誌の名誉のためにも皆さんがんばってくださいね！」

ボッスン「これは本当に負けられないな、おいお前ら、絶対勝ってジャンプアピールするぞー！」

スイッチ・神楽・男鹿・古市「オーッ！！」

ベル坊「たぶーー！！」

4人（+ベル坊）が声を上げた。

ヒメコ（お前が仕切るんかいな！）

ヒメコは心の中でツツコミを入れる。

可符香「私たちががんばるわよー！」

ナギ・シノ・改蔵・カエレ「オーッ!!」

こちらも4人が声を上げた。

羽海「こんなメンバーでチームワーク発揮できるのかな？」

ハヤテ「お嬢様以外にもいろんな変わり者が多いですね……。」

タカトシ「生徒会よりも大変な気がしてきた……。」

まずはジャンプチームが挑戦。

紹介・ファラ男との会話（後書き）

関西人って否定するときに、『なや』って言いますかね？

ジャンプチームの挑戦 床の間 その1

第1ステージは床の間。

最初に挑むのはジャンプチーム。

挑戦者は、坂田銀時・ヒメコ・古市貴之。

一見何の変哲もない細長い部屋だが、部屋の奥には奈落の底まである穴が。

しかも部屋の床はすべりやすくなっている。

部屋にはカギのかかった宝箱がある。

この部屋には何が待ち構えているのか・・・。

3人が手袋と靴下をつけた状態で入ってくる。

銀時「なんだこの部屋？」

ヒメコ「この床、妙にすべりやすいやんか。」

古市「うわあ奥の方、穴が開いてるじゃないか。しかもすごく深い・・・。」

ヒメコ「ホンマや！落ちたら大変や！」

銀時「でもこの先、何が起こるんだ？」

そしてモニターからフアラ男が現れる。

フアラ男「フアラフアラフアラフアーラオー、ようこそ床の間へ！」

ヒメコ「この部屋には何があるんや!？」

ファラ男「それでは今からこのステージの仕掛けをお見せしましょう！」

と何か床から音が・・・。

銀時「わっ、これ床傾き始めてるぞ！」

古市「これどうするんだよ！」

と、ヒメコが左側にあった何か出っ張っているものを見つけた。

ヒメコ「これや！まずこれに乗るんや！」

3人は足場に足を乗せる。

男ナレ「突然傾き始めた床。3人は唯一の足場に移動。傾き続ける床は30度まで上昇。一步間違えれば奈落の底へ・・・。」

銀時「これ、本当に急だな・・・。」

ファラ男「それではここでルールを説明しましょう。皆さんはこの部屋の3つのクイズゾーンでクイズに挑戦してもらいます。」

男ナレ「下のゾーンからクイズに答え、一番上を目指す。各ゾーンに全員が移動しなければクイズは出題されない。制限時間10分以内に3つのゾーンをクリアすると、黄金のファラ男像を手に入れるための最後の試練に挑戦できる。成功すれば床の傾きが元に戻り、宝箱ロックが解除され、黄金のファラ男像を獲得することができる。」

但し、問題を考えている間、床が傾き続けるので、どんどん移動が難しくなっていく。」

フラ男「それでは皆さん、がんばってくださいねー。」

アイヤーホイヤー

チャレンジ開始

女ナレ「チャレンジスタートです。」

そしてカウントダウンが始まる。

ピーー

10分からどんどんタイマーが減っていく。

ここからは、銀時↓銀、ヒメコ↓ヒ、古市↓古と省略します。

ヒメコ「どうするんや、これから？」

女ナレ「第1ゾーンの足場が出ます。」

そしてだい1ゾーンの足場が出てくる。

ヒメコ「まず誰から行くんや？」

銀「じゃあ主人公のオレからだ。」

ヒ「じゃあまず銀さんからな。」

銀「よし、行くぞ！」

銀さんはジャンプした。

手が足場につき、よじ登る。

銀「よし、乗れた。」

ヒ「次はウチの番や。古市、土台になれや。」

古（えっ・・・？）

古市はドキッとする。

ヒメコは古市の方に乗っかる。

古（パンツ少しだけ見えるかな・・・？）

ヒ「古市、絶対スカートの中見るなや！」

古「は、はい・・・。」

古市は我に戻る。

ヒ「よし行くで！おりやつ！」

ヒメコはジャンプした。

銀さんの手を掴み、足場へ移動した。

古「オレはこれから・・・。」

ヒ「自力で行けや。」

古市は、はあくためいきつきながらも第1ゾーンの足場へ移動しようとする。

古「えいっ!!」

ジャンプした。

古市はなんとか足場に手がつき、第1ゾーンにたどり着いた。よじ登る古市。

銀「これで3人そろったな。」

女ナレ「第1ゾーン、クイズスタートです。床が傾き始めます。」

床 始動

そして床が傾き始める。

ヒ「そろそろ始まるわな。」

女ナレ「共通ワードクイズ、正解ノルマは3問です。」

男ナレ「共通ワードクイズとは、2つの事柄を見て、共通する言葉を当てるクイズである。」

例・1・競争でビリになった時。

2・別れた人と再び会った時。

答え　さいかい（1・最下位　2・再会）

女ナレ「第1問。」

1・焼肉のメニューの1つ

2・スコップやシャベルなど。改まっていけない言い方で。

○○○○

考える。

ヒ「スコップやシャベル・・・、これは掘るもんやな。」

古「今の聞いてわかった！ホルモンだ！」

ヒ「あっそうや！」

ボタンを押す。

3人「せーの、ほるもん！」

ピンポン

正解・ほるもん　（1・ホルモン　2掘るもん）

女ナレ「第2問。」

- 1・意見に同意すること
- 2・祖父は一世なら、自分は？

○○○○

ヒ「なんやっただけ・・・？」

ヒメコは思い出そうとすると・・・。

銀「一世、二世、三世・・・。さんせいじゃねーか？」

ヒ「そうや、さんせいや！確かに意見に同意すること賛成と言うわ！」

ボタンを押す

3人「せーの、さんせい！」

ピンポーン

正解・さんせい（1・賛成 2・三世）

ヒ「あと1問や・・・。」

女ナレ「第3問。」

- 1・鯛を切ろうとしたが、思ったように切れない。
- 2・肩がこったと感じた時。

○○○○い

古「なんだ・・・？」

3人は考える。

ヒ「鯛が切れないということは固いのちゃうかな？」

古「鯛、硬い。硬い鯛・・・。かたいたいだ！」

銀「それじゃねーか！肩が凝るといことは、肩が痛いというからな。」

ボタンを押す。

3人「せーの、かたいたい！」

ピンポンピンポーン

正解 かたいたい（1・硬い鯛 2・肩痛い）

床 一時停止

床の傾きが止まる。

女ナレ「ノルマをクリアしたので、床の傾きが止まりました。」

ここまでの床の傾きは34.8度。

残り6分30秒

果たして次のゾーンに3人は行けるか・・・。

続く

ジャンプチーム 床の間 その2

床の間に挑戦するジャンプチームの銀さん・ヒメコ・古市。

今、第1ゾーンのクイズをクリアした。

女ナレ「第2ゾーンに移動してください。」

そして第2ゾーンの足場が出てくる。

ヒ「さっきと同じ方法で行くか？」

銀「ああ。」

銀さんは、助走をつけて飛び移ろうとする。

銀「おらっ！」

銀さんはジャンプする。

足場を手で掴み、よじ登る。

ヒ「次はウチや。お前、絶対変な所、見んなや。」

古市に言う。

さっきのようにヒメコは古市を土台にし、足場に登ろうとする。

古「ガマン、ガマン、女子の足に乗れるんだし。」

古市がドキドキしていた時ヒメコは、

ヒ「おりゃっ！」

足場へとジャンプした。

そしてたどり着く。

古「あとはオレか……。それにさっきより距離あるぞ。」

古市は少し不安になる。

ヒ「がんばれや、時間なくなるで。ちゃんと手つかめや。」

ヒメコは古市へ手を伸ばす。

古（よし、一気に飛んでやる！）

古市が足場へ行こうとしたがわずかにヒメコの手に届かず……。、

古「あああゝゝ！」

奈落の底へ滑り落ちてしまった。

ヒ「古市ー！ー！！」

ヒメコが叫ぶ。

女ナレ「古市さん、失格です。」

サポートルーム

可符香「やったー！1人なくなったあ！」

ボッスン「何やってんだよ、古市・・・。」

あきれるボッスン。

男鹿「まああいつ1人なくなったって何とかなるだろ。」

対して男鹿はどうでもいいという顔だった。

――――

男ナレ「古市、必死のダイビングジャンプもわずかに手が届かず、脱落。」

銀「まあアイツいなくてもどうってことないだろ。」

ヒ「そやな。」

落ちていった古市を薄情に言う2人。

女ナレ「第2ゾーン、クイズスタートです。床が傾き始めます。」

床 再始動

床が再び傾き始める。同時に第1ゾーンの足場がなくなる。

女ナレ「共通ワードクイズ、正解ノルマは2問。では第1問。」

1・関西人が箱を中身を開けたら空っぽだったので一言。

2・幼稚園で園児がこけて涙を流しているとき、なぐさめようとする先生が一言。

○○○○で

ヒ「えっとこれは・・・、中がないから、なかないで・・・なかなかいいでや!」

銀「そうか!」

ボタンを押す。

2人「せーの、『なかないで』!」

ピンポーン

正解・なかないで(1・中かないで 2・泣かないで)

女ナレ「第2問。」

1・父親が部屋のドアを開けっ放しにしている息子に怒りながら一言。

2・悪いことをした人を制裁するために、中心となる人が仲間たちに一言。

○○○○ろ

ヒ「ドアを開けっ放しにして父親が怒る・・・。」

銀「悪い奴を成敗するということはこらしめるだからな・・・。」

これを聞いてヒメコは、

ヒ「そうや！こらしめろや。」

ボタンを押す。

2人「せーの、『こらしめろ』！」

ピンポンピンポーン

正解・こらしめろ（1・こら、閉めろ。 2・懲らしめろ）

床 一時停止

床の傾きが止まる。36・5度。

女ナレ「2ポイント獲得したため、床の傾きが止まりました。第3ゾーンに移動してください。」

そして第3ゾーンの足場が現れる。

ヒ「今度は、銀さんが土台になってや。」

銀「なんでだ？」

ヒ「まず、女子を移動させるべきやろ！ そうしないと危ないで！」

計画的な事を言うヒメコ。

銀「わかったよ。」

ヒメコは銀さんを土台にする。

ヒ「よし、ここでや。」

ヒメコは足場に飛び移ろうとする。

ヒ「おりゃっ！」

ヒメコはジャンプする。

足場に手が届き登る。

ヒ「よっしゃ、行けたわ。」

銀「次はオレか・・・。」

ヒ「古市のようにアタシ、手を伸ばすわ。」

ヒメコは手を伸ばす。

銀「勝って賞金手に入れるためだ・・・、絶対に飛び移ってやる！」

銀さんは賞金への執念を燃やし、足場へ飛び移ろうとする。

銀「おらあ！」

決死で飛び移った。

ガシッ

銀さんの手がヒメコの手に届く。

ヒメコは角に手を掴みながら銀さんを足場へ移動させようとする。

ヒ「おりゃあああ！」

銀「うおおお！」

そして決死の末、銀さんは足場に足を乗せる。

――――

サポートルーム

神楽「やっぱり銀ちゃん、すごい執念でアルね！」

ボッスン「ヒメコも銀さんを必死で持ち上げるなんてすごいじゃないか！」

ジャンプチームに歓声がわく。

――――

銀「はあなんとか着いたぜ・・・。」

ヒ「こっちも銀さん、ここまで引っ張って疲れたわ・・・。」

男ナレ「銀さんとヒメコの見事な連携プレーで見事銀さんは第3ゾーンで登りきった！やはりこれは賞金への執念か！？」

女ナレ「第3ゾーン、クイズスタートです。床が傾き始めます。」

床 再始動

女ナレ「共通ワードクイズ、正解ノルマは1問です。問題。」

1・食べ過ぎたサイを見て飼育員が一言。

2・スリにあった女性が一言。

○○○○○○○

5番目は小さい文字

ヒ「えっと、スリが普通取るものと言えは・・・、財布やな。」

銀「いうことは・・・、財布取られた、財布取った・・・。」

ヒ「さいふとったや！サイは太ったということや！」

ボタンを押す。

2人「せーの、さいふとった!」

ピンポンピンポーン

正解・さいふとった (1・サイ太った? 2・財布取った)

床 一時停止 残り55秒 床の角度37. 3度

銀「よし、これで何とかクイズ坂登るクイズは終わりだな。」

ヒ「いや、まだ秘宝手に入れる課題があるで。」

そしてモニターにフアラ男が現れる。

フアラ男「いやーよくここまでたどり着きましたね。」

ヒ「まあウチには銀さん持ち上げるくらいにパワーはあるわ。」

銀「オレも賞金獲得の為には負けられないからな。」

フアラ男「それから古市って、どうでもよかった?」

フアラ男の質問に2人は、

ヒ「まあ、あんなのいなくてもな。」

銀「そうだな。」

古市の雑に扱うような発言をする2人にフアラ男は、

ファラ男「君たち、古市をもっと大切に扱ってくださいねー。」

いよいよ2人は秘宝を獲得するための試練に挑戦する。

果たして2人は秘宝を獲得できるか・・・。

ジャンプチーム 床の間 その3

床の間でジャンプチームは、見事3つのゾーンのクイズをクリアする。

しかし古市が奈落の底へ落ち、残っているのは銀さんとヒメコ。いよいよファラ男像を獲得するための試練を行う。

2人は試練をクリアして、見事ファラ男を獲得をすることができるか・・・。

ファラ男「見事3つのクイズをクリアし、黄金のファラ男像を獲得するための最後の難関、坂落ちの試練！ルールを説明しましょう。」

男ナレ「これから出題されるのは3択クイズ。解答は坂の上にある赤・青・黄色の3色の玉を使って行われる。正解の選択肢と同じ色の玉を取り、坂の下にある顔の口にはめ込めば、ステージクリアとなる。制限時間は2分。時間一杯まで、残っているメンバーがチャレンジできる。」

ファラ男「ちなみに、坂の上にある長いロープがありますので、うまくそれを使って斜面を滑ってください。ロープは1人分しか支えられない強度なので気をつけてくださいね。」

銀「1人分の強度か・・・。」

ファラ男「それでは坂落ちの試練に挑戦する前に、足場を出しておきましょう。」

ファラ男がそう言うと第1ゾーンであるエリアに足場が現れた。

ヒ「あ、下に足場が出てきたわ。」

そのエリアには先ほど言った石でできた顔の口と四角いボタンがある。もし間違えれば足場がなくなり、その人は奈落の底へ落ち、失格となる。

フアラ男「さあ皆さん検討を祈ります！がんばってちょうだいね！
バイバーイ。」

そう言うとモニターからフアラ男が消える。

女ナレ「それでは、坂落ちの試練スタートです。」

カチャン

ロープのロックが解除され、使えるようになった。

銀「お、ロープ出てきたな。」

同時に時間のカウントダウンが始まる。

ピーー

2分から時間が減っていく。

そして床も再始動する。

女ナレ「正しい意味はどれ？クイズ。」

問題・端喧嘩はげんかの本来の意味を次の中から選りなさい。

赤・遠い相手への喧嘩

青・誤解を招いた喧嘩

黄色・小競り合いの喧嘩

銀「わかんねーな・・・。」

ヒ「ウチもぜんぜんわからへん。端喧嘩なんて初めて聞いたわ。」

悩む2人。

ヒ「どうすんや？」

銀「もうこれはカンで行くしかないだろ？」

ヒ「しゃーないな。じゃあどれにしようか？」

銀「お前、何だと思う？」

ヒ「遠い相手への喧嘩ちゃうか？」

銀「じゃあこれにするか。」

ヒ「じゃあウチが先に行くわ。」

ヒメコはロープに向かって飛び移った。

ヒ「おらっ！」

そして手がロープに届く。

ヒ「確か赤だったはずやな・・・。」

ヒメコは坂を上る。

玉のあるところまで行き、ヒメコは赤の玉を取る。

そしてヒメコは玉を支給されたポジェットに入れる。

ヒ「ここから降りるんやな・・・、よし、行くわ!」

ヒメコは勢いよく、足場に飛びついた。

ヒ「よし、後はこれに玉を入れれば・・・。」

ヒメコは顔の口に玉を入れた。

ヒ「おらっ!」

ヒメコはボタンを押した。

ヒ「どや!」

銀「当たれ!」

ヒメコと銀さんは祈る。ここで残り1分となる。

男ナレ「果たしてこれが正解なのか!? ヒメコの運命は!」

ブー――

不正解

ヒ「何！？違うやて！？」

銀「違ったか！？」

そしてヒメコの足場がなくなり・・・、

ヒ「わああああ！！」

ヒメコが奈落の底へ落ちてしまった。

銀「くそっ、ヒメコが落っこちまったか・・・。」

女ナレ「ヒメコさん、失格です。」

――――

サポートルーム

ボッスン「ああ、ヒメコ！」

がっかりするボッスン。

可符香「やったあ！また1人減ったあ！」

大喜びの可符香。

――――

男ナレ「己のカンを信じて選んだものも、不正解であえなく落下！ヒメコ、脱落く。

残るのは銀さんただ1人！果たして正解できるか！？」

床の角度はどんどん急になる。残りは40秒を切った。

銀「青か・・・黄色か・・・、どれなんだ？」

どちらにしようか考える銀さん。

――――

新八「これ黄色じゃないんですか？僕たち万事屋はしょっちゅう、家計の事で小さいもめごととかするから・・・。」

シノ「もしかしたらこれかもしれんな。」

男鹿「オレ、全然そんなことわかんねーや。意味とか考えたことねーし。」

――――

時間は30秒を切った、そして銀さんの選んだ答えは・・・、

銀「よし、黄色だ！これもしかしたらオレたち万事屋の事かもしれないな。」

――――

新八「あっ銀さんが黄色選んだ！」

これにはドキドキする新八。

――――

銀「急がねーとやばいな・・・。」

銀さんはロープまでジャンプする。

そしてロープに手がついた。

銀「黄色だ・・・。」

銀さんは黄色の玉を取る。

そして足場に向かって・・・。

銀「よし！今だ！」

銀さんは飛び移った。

見事足場に移ることができた。

残り10秒を切った。

銀「あとはこれを・・・。」

青の玉を外し、黄色の玉を入れる。

銀「うおらっ！」

銀さんはボタンを押した。

――――――――――

新八「小競り合いであってますように・・・。」

神楽「銀ちゃんを信じるネ。」

サポートルームは見守る

――――――――――

男ナレ「果たしてファラ男像獲得となるか!?!」

ピンポーン

正解

銀「よおーーーーっし!!!!」

大喜びする銀さん。

女ナレ「銀時さん、坂落ちの試練、成功です。」

ーーーーー

神楽「やりましたね！銀さん！」

神楽「よかったでアル！」

ボッスン「とりあえず1体獲得だな。」

邦枝「まあまあな滑り出しね。」

ジャンプチームは大喜び。

ーーーーー

そして床が元に戻る。

銀「ふう・・・、戦いよりも疲れたぜ・・・。」

さすがの銀さんもこれには疲れたようだ。

ピーー

そして宝箱のカギが解除される。

1体のファラ男像が出てきた。

銀「これがファラ男像か・・・、しかしセンス悪い顔だな。」

男ナレ「銀さん、己のカンと万事屋の友情で見事1人分のファラ男像をゲット！」

3人はサポートルームに戻る。

ファラ男「いやー、銀さんよかったですね。」

銀時「神楽と新八とは喧嘩も多いが、それも友情の一環だからな。だからあの問題を解くことができたかもしれないな。」

神楽「さすが銀ちゃんデアル！」

新八「これを見て、僕も銀さんと一緒にいて本当によかったと思いましたね。」

この銀さんの活躍ぶりでもまた万事屋の3人に友情が少し芽生えたようだ。

銀時「ところでこの像、いくらで売れるんだ？」

ファラ男「売らないでください！」

周りに笑いがつつまれる。

次はサンマガチームの挑戦。

マガジン・サンデーチーム 床の間 その1

続いてはマガジン・サンデーチームが挑戦。

挑戦するのは、綾崎ハヤテ・勝改蔵・津田タカトシの各漫画の主人公3人。

果たして3人は主人公の意地をかけて、フアラ男像を獲得できるか！？

3人は部屋に入る。

ハヤテ「本当にこの床滑りますね……。」

タカトシ「この後床が傾くのか……。」

改蔵「これだけ滑れる床ならスケート無しのフィギュアスケートができる。床が傾けば、一気に滑り台となり、一気に遊戯器具となる……。」

相変わらずわけのわからないことを言う改蔵。

そしてモニターにフアラ男が現れる。

フアラ男「フアラフアラフアラフオー！なんか君たち、女子たちに置いてけぼりにされた男子みたいだね。」

ハヤテ「いや、別に置いてけぼりにされたというんじゃない……。」

タカトシ「でもオレ、なんか男子たちでむしろ空気が変わった感じがするんだな。」

ファラ男「まあハヤテとタカトシは女子と一緒にいる機会が多いから、男子だけの部屋に空気が変わるのは当然だね。ところで改蔵、君は大丈夫？」

改蔵「ファラ男像が取ればいい。2人が犠牲になって、オレだけでも取ればいい。」

タカトシ「おい！安易にオレたちを犠牲にしてファラ像を取るのはやめてくれ！」

ファラ男「ははは、相変わらず改蔵、とんでもないこと言うね。」

――――

サポートルーム

羽美「大丈夫かしら・・・。」

ナギ「まあ、ハヤテならなんとかあいつをうまく扱えるだろう。」

シノ「津田のがんばりには期待だな。」

――――

男ナレ「破天荒な事ばかり言う改蔵をハヤテとタカトシはうまくフォローできるか！？」

アイヤーホイヤー

ハヤテ「あ、始めましたね。」

そして床が傾き始める。

タカトシ「傾いたぞ！早くあそこの足場へ行こう！」

3人は足場に足をつける。

そして床の角度は30度まで上昇する。

女ナレ「それではチャレンジ開始です。」

そして10分からのカウントダウンが始まる。

女ナレ「第1ゾーンに移動してください。」

そして第1ゾーンの足場が現れる。

ここからはハヤテ↓ハ、改蔵↓改、タカトシ↓タと省略します。

ハ「これどうやって移動します？」

改「オレとタカトシがハヤテを土台にして移動させよう。」

これにハヤテは、

ハ「ちよっと！何でそんな軽く僕をものみたいに扱って・・・。」

改「ハヤテは超人的な能力だろ？多少どこかを痛めたって問題ないだろ？」

ハ「たったそれだけで……。」

改蔵の直感的な意見だが、2人がハヤテを土台にしてわたり、ハヤテは自力で行くことに決まった。

改「まず、オレだ。」

改蔵はハヤテの肩に足を乗せる。

そして飛び移る。

改「よし、行った。」

余裕で足場についた。

タ「次はオレか。綾崎、すまないな。」

ハ「いや、いいですよ。」

改蔵同様、タカトシはハヤテの肩に乗っかる。

タカトシはいきおいよくつけて……。

タ「えいっ！」

飛び移った。

タ「おっとっと・・・。」

なんとか足場に足をつくことができたタカトシ。

ハ「あとは僕ですね・・・。」

タ「綾崎、行けそうか？」

ハ「行けると思います。じゃあ行きますよ。」

ハヤテは1人のみで足場に飛び移ろうとする。

そして飛び移った。

ハ「行けました！」

見事足場に乘ることができた3人。

3人はぎゅうぎゅう詰めになる。

女ナレ「第1ゾーン、クイズスタートです。床が傾き始めます。」

床 始動

床が傾き始める。

女ナレ「共通ワードクイズ、正解ノルマは3問。2つの文を見て共通する言葉を答えなさい。第1問。」

1・命が危うい状態。

2・運転中の車がなかなか進まない。

○○○○い

2番目は小さい文字。

タ「これは・・・、」

ハ「じゅうたいじゃないんですか？」

タ「そうか！意識不明の重体と車の渋滞か！」

ハヤテはボタンを押す。

ハ「『じゅうたい』！」

ピンポーン

正解　じゅうたい（1・重体　2・渋滞）

女ナレ「第2問。」

1・オーケストラにはかかせない。

2・野球でバッターがヒットを打った後は・・・。

○○○○

4番目は小さい文字。

ハ「野球でバッターがヒットを打った後・・・。」

タ「あ、わかった！これはそうしゃだ。野球で塁に出ることを走者というからな。」

ハ「あっそうですね！オーケストラは奏者ですし。」

ボタンを押す。

ハ・タ「せーの。『そうしゃ』！」

ピンポーン

正解 そうしゃ（1・奏者 2・走者）

改「あと1問だな。」

女ナレ「第3問。」

- 1・カラオケで歌いたい歌を決めます。
- 2・国会議員を決めるための地域。

○○○○く

4番目は小さい文字。

タ「これは・・・。」

ハ「なんででしょうね・・・。」

3人は考える。

改「国会議員を選ぶ、カラオケで曲を選ぶ……。」

タ「国会議員を選ぶ……、選挙……、あ、せんきよくじゃないか？国会議員を選ぶための地域を選挙区と曲を選ぶための選曲……。」

ハ「そうですね！」

ボタンを押す。

ハ・タ「『せんきよく』！」

ピンポンピンポーン

正解　せんきよく（1・選曲　2・選挙区）

床　一時停止　角度32・9度

タ「よし、床止まったみたいだな。」

女ナレ「ノルマをクリアしたので、床の傾きが止まりました。第2ゾーンに移動してください。」

そして第2ゾーンの足場が現れる。

残り7分を切っている。

果たして3人は次のゾーンに行けるか……。

サンマガチーム 床の間 その2

床の間に挑戦しているハヤテ・改蔵・タカトシ。

今、第1ゾーンのクイズをクリアし、第2ゾーンの足場に移動しようとしている。

ハ「さっきより少し傾きましたね。」

改「さっきと同じようにハヤテを土台にして進む作戦だ。」

そう言うのと改蔵はハヤテを再び土台にして、第2ゾーンの足場へ飛び移った。

そして見事足場についた。

タ「次はオレだ。」

タカトシはハヤテを土台にして、足場へ飛び移った。

タ「よし、届いた。」

タカトシも無事に足場へついた。

ハ「さっきより急になってますから、少し気合を入れます。」

そう言うのとハヤテは深呼吸をして・・・、

ハ「はあっ！」

足場へ駆け上がった。

狭くなったスペースの足場に手が届き、ハヤテはよじ上る。

ハ「これでまた3人とも着きましたね。」

女ナレ「第2ゾーン、クイズスタートです。床が傾き始めます。」

床 再始動

床がまた傾き始め、第1ゾーンの足場もなくなる。

女ナレ「共通ワードクイズ、正解ノルマは2問です。第1問。」

1・こしょうやスパイスなど。

2・ブログの記事の投稿数。

○○○○○○う

6文字目は小さい文字。

タ「ブログの記事の数・・・？」

ハ「こしょうやスパイス・・・、あっこれって香辛料ですよね。確かブログを更新するって言うんじゃないんでしょうか？」

タ「あ、そうか！」

ボタンを押し、

ハ「『こうしんりょう』!」

ピンポーン

正解 こうしんりょう（1・香辛料 2・更新量）

女ナレ「第2問。」

1・マイホームを見に来たカップルで、女性がお目当ての家の価格が億単位と知り、男性に一言。
2・受験勉強している息子に夜食を持ってきた母親が、夜食を机に置いて息子に一言。

こ〇〇〇〇よ

ハ「最初がこで最後がよ……。」

タ「なんだ……?」

3人は考える。

ハ「億というものがポイントですね。」

改「これおおく……、ここおおくよ……。」

タ「それじゃなんかおかしいんじゃないのか?」

ここでハヤテがひらめく。

ハ「あつ、改蔵さんの聞いてピンとききました！『ここにおくよ』です！」

タ「お、そうか！勝、ナイスだ！」

タカトシは改蔵に賞賛の声を出す。

ボタンを押す。

ハ「せーの、『ここにおくよ』！」

ピンポンピンポーン

正解 ここにおくよ（1・ここ2億よ！ 2・ここに置くよ。）

床 一時停止

床の傾きが止まる。床の角度35.0度 残り時間4分40秒。

女ナレ「ノルマをクリアした為、床の傾きが止まります。第3ゾーンに移動してください。」

そして第3ゾーンの足場が現れる。

タ「またさらにきつくなったな・・・。」

そして移動手段は先ほどと同じハヤテを土台にして行く。

改蔵はハヤテを土台にし、

改「よし、一気に駆け抜ける！」

そう言うのと改蔵は足場へと飛び移った。

そして足場に手が着き、改蔵は上る。

改「よし、上れた。」

タ「次はオレだ。」

タカトシもハヤテを土台にし、足場へとジャンプした。

改蔵と同様、足場に手がつき、上っていった。

タ「オレもなんとか上れたぞ。」

ハ「あとは僕だけですな。」

タ「綾崎、ここまで上れるか？オレが手を伸ばして上らせようか？」

ハ「大丈夫です。自分で行けます。ここは僕、気合を入れて駆け上がります！」

そう言うのとハヤテはオーラを出す。

ハ「はあああああああ！……！」

ハヤテは全力を振り絞って、足場へと駆け上がった。

そして見事足場に手がつき、よじ上^{のぼ}って、ハヤテも第3ゾーンに着いた。

タ「お、着いたか！」

ハ「これで誰も落ちずに第3ゾーンに着きましたね。」

――――――――――

サポートルーム

羽美「あの人すごい・・・！」

ナギ「さすがハヤテだな。」

ボッスン「あいつすごすぎるな、第3ゾーンで誰の手も借りずに・・・。」

神楽「手ごわいアルね。」

これにはジャンプチームも驚愕する。

――――――――――

男ナレ「さすが超人的能力を持つ綾崎ハヤテ！誰の手も借りず、自分の力で第3ゾーンに上りつめた！」

女ナレ「第3ゾーン、クイズスタートです。床が傾き始めます。」

床 再始動

そしてまた床が傾きはじめる。第2ゾーンの足場もなくなる。

女ナレ「共通ワードクイズ、正解ノルマは1問です。問題。」

1・動物園でお目当ての中国から輸入した動物を見に行こうとしたら、それがなくて一言。

2・高校生が高校の昼食を買うために購買に行ったが、お金が足りず一言。

○○○○○い

タ「中国からの動物……。これポイントだよな？」

ハ「多分そうですね。それから購買わかります？」

タ「いや、オレの高校、昼食は弁当か学食だからわからないな。」

改「オレの高校の購買にあるものは、おにぎり、パン……。」

それを聞いてハヤテは、

ハ「パン……、パンダ、動物の方パンダじゃないですか？」

タ「そうか、中国の動物といったらパンダだな！そのパンダがいないだから……。」

ハ「『ぱんだいない』ですよ！パン代がないということです！」

タ「なるほど！じゃあ最後は3人で・・・。」

ハヤテはボタンを押し、

3人「せーの『ぱんだいない』！」

ピンポンピンポン

正解　ぱんだいない　（1・パンダいない　2・パン代ない）

床　一時停止

そして床の傾きが止まる。

残り1分45秒　床の角度37・1度

モニターにフアラ男が現れる。

フアラ男「これすごいね！意外とチームワークがかみ合っているじゃん！」

ハ「改蔵さんが意外とアシストしてくれるんですよ。」

改「2人が答えがわかれば、俺が活躍できなくてもかまわない。像を取りまぐればいい。」

フアラ男「こんなこと言うキャラが、意外と活躍するんだねえ。」

さあ3人はファラ男像獲得のための坂落ちの試練に挑む。

果たして見事クリアできるか・・・。

サンマガチーム 床の間 その2（後書き）

壁の間に挑戦しているハヤテが主人公のハヤテのごとくの新刊30巻が絶賛発売中！（10月18日に発売されました）

期間限定版も同時発売！お買い求めはお早めに！

ちょっと宣伝してみました（笑）

本家のTOREでも宣伝も兼ねて来る芸能人もいるので、こっちもやってみてみました。

サンマガチーム 床の間 その3

床の間に挑戦中のハヤテ・改蔵・タカトシは見事誰も落ちることなく第3ゾーンまで上りつめクリアした。さあ3人はファラ男像獲得のために坂落ちの試練に挑む。

果たしてファラ男像を獲得できるか・・・。

男ナレ「ファラ男像をかけた最後の難関、坂落ちの試練。」

そして、最後の足場が現れる。

3人は真下の足場を見る。

ハ「出てきましたね。」

女ナレ「それでは、坂落ちの試練、スタートです。」

カチッ

タ「ロープ使えるようになったな。」

ロープのロックが外れるのと同時に2分間のタイマーがスタートする。

ピーー

カウントダウンが始まる、そして同時に床も動き出す。

女ナレ「正しい意味はどれ？クイズ。」

問題・文作ふみつくりの本来の意味を次の中から選びなさい。

赤・小説を作る

青・漢詩を作る

黄色・俳句を作る

タ「どれなんだ・・・？」

ハ「小説を作るは、僕はなんか違う気がします。」

改「じゃあ青か黄色になるということか。」

タ「どっちにするか・・・。」

改「黄色がいいと思うな。」

ハ「なんでですか？」

改「文と作を入れ替えると作文になる。俳句は作文っぽい感じもある。」

ハ「ちょっと、言ってることわかりませんが・・・、それにしましょうか？」

タ「これは誰が行く？」

タ「じゃあ僕が行きます。」

ハヤテが行くことになった。

ハ「ロープまで行きますからね。」

ハヤテはロープまで飛び移る。

ハ「えいっ！」

飛び移り、見事ロープに手がついた。」

ハ「確か俳句は黄色・・・。」

ハヤテは黄色の玉を手に取り、ポジエットに入れる。

ハ「後はあそこまで・・・。」

ハヤテはロープを伸ばして、反対側の足場にまで乗り移ろうとする。

そしてうまく足場に移った。

この時点で残り1分となった。

ハ「よし、この玉を・・・。」

ハヤテは、壁についている口に黄色の玉を入れて、

カチッ！

ボタンを押した。

そして足場がなくなり・・・。

ハ「わああゝゝ!!」

ハヤテは奈落の底へ・・・。

タ「綾崎――っ!!」

タカトシは叫ぶ。

女ナレ「ハヤテさん、失格です。」

――――――――――

ナギ「ハヤテゝゝ。」

わめき悔しがるナギ。

古市「1人いなくなったあ!」

神楽「いい気味アルね!」

喜ぶジャンプチームの一部。

――――――――――

男ナレ「いい活躍を見せるも、最後は不正解で落下というなんともハヤテらしい不幸な結末!綾崎ハヤテ、脱落ゝ。」

残りは2人。

タ「じゃあ漢詩だな！」

タカトシは即効で青と決める。

改「オレが行こうか？」

タ「いや、ここはオレが行く！」

――――

シノ「おっ、ここは津田が行くか。」

――――

タカトシはロープまでに飛び越えようとする。

タ「おっとっと・・・。」

タカトシは何とかロープを掴んだ。

そして玉のある所まで駆け上がる。

タ「青だったな。」

タカトシは青の玉を取った。

そしてその玉をポジェットに入れる。

そしてタカトシは足場に移動する。

見事足場に着く。

タ「これで当たってくれ・・・。」

タカトシは、口にある黄色の玉を外し、青の玉を入れ、

カチッ

ボタンを押した。

タ「頼む！」

祈るタカトシ。

丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨

シノ「当たると信じる。」

羽美「お願い・・・。」

シノと羽美は祈る。

丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨丨

男ナレ「果たしてタカトシの運命は!？」

ピンポンピンポーン

正解

改「正解か？」

タ「そうみたいだ。」

――――

シノ「よくやった、津田！」

可符香「すごいなあ！」

カエレ「よくやったわね。」

羽美「よかった・・・！」

ナギ「まあ全員クリアじゃなかったのは残念だが、2人でも良しとしよう。」

サンマガチームの女子たちは喜ぶ。

神楽「クリアしちゃったアルか。」

ボッスン「悔しいがこれは認めざるを得ないな。」

――――

女ナレ「坂落ちの試練、成功です。」

そして床が元に戻っていく。

改「滑り台がスケート場に戻っていく。」

クリアしても相変わらず変なことを言う改蔵。

タ「綾崎がいなくなったが、それでも2人生き残ったな。」

そして宝箱のロックが解除され、ファラ男像が出てくる。

2人はファラ男像を手取る。

男ナレ「タカトシの瞬発的な好判断で、見事マガジン・サンデーチーム、ファラ男像を2体獲得！」

3人はサポートルームに戻る。

ファラ男「ハヤテの落ちっぷり、やっぱりハヤテらしい結末だったね。」

ハヤテ「いや、あれは改蔵さんが黄色じゃないかと言ったから・・・。」

改蔵「オレ、そんなこと言ったかな？」

ハヤテ「ええ、言い逃れしないでくださいよ。」

周囲に笑いが包まれる。

シノ「でもこれで私たちのチームが一步リードだ。」

ボッスン「でもまだ始まったばかりだ！次で追いついてやる！」

ジャンプチーム1体、マガジン・サンデーチームが2体とサンマガチームがリード。

次は第2ステージ。

最初はマガジン・サンデーチームが挑戦。

サンマガチーム 床の間 その3（後書き）

坂落ちの試練で間違えて落ちたヒメコとハヤテって、そういえばどちらも白石涼子さんの声でしたね。

これはちよっとかわいそうと思いましたね。

白石さんファンの皆様ごめんなさい。

でもこれが作者の考えたストーリーですから。

マガジン・サンデーチームの挑戦 石像の間 前編

マガジン・サンデーチームが挑む第2ステージは石像の間。

挑戦するのは、風浦可符香・木村カエレ・名取羽美という久保田康治作品ヒロイン。

あたり一面の部屋には砂が敷かれており、そして部屋の置くには不気味な石像が立ちほだかる。

そして1から4と番号が書かれた怪しげな台座がある。

この部屋で何が起こるのか・・・。

果たして久保田作品ヒロイン3人組はうまくまとめられて、ファラ男像を獲得できるか!?

3人は部屋に入る。

カエレ「ここが私たちが挑むステージね。」

羽実「部屋の奥を見る。」

羽美「ちょっと!あれDEROにあった石像じゃない!?!」

カエレ「た、確かに・・・!何でTOREにも出てきてるの!?!」

可符香「うわー、何かワクワクしてきたー。」

相変わらずポジティブな可符香。

――――――――――

サポートルーム

タカトシ「あ、あの石像だ。前、DEROでオレと会長が出た時は本当に怖かった・・・！」

ボッスン「オレもテレビで見たことある、確かに怖いよな。」

――――

そしてモニターにフアラ男が現れる。

フアラ男「フアラフアラフアラ、ようこそ石像の間へ！」

羽美「なんであの怖い石像がTOREにも・・・。」

フアラ男「スタッフが考えた結果、TOREにも石像の間を置くことに決めましたー。」

可符香「まあいいじゃない。全く同じステージのものがリニューアル後の番組に出て。」

フアラ男「君、相変わらず積極的だね。」

可符香「いやーそれほどじゃないから。」

カエレ「じゃあこれから何をすればいいか説明してください。」

フアラ男「ではお宝を手に入れたければ、足元にあるロープを自分の左右それぞれの足首につけてください。」

3人はあらかじめつけられた足かせにロープをつける。

カエレ「なんか自分で足かせつけるって、複雑な気分ね。」

石像の間のルール説明

男ナレ「このステージでは自分の足かせについているロープをつけなければならぬ。そして挑戦者はこの後、石像の前まで移動。すると3つの扉が閉まり、石像が動き出す。迫り来る石像に捕まる前に、クイズを解き、全ての扉を開けられれば、最後の難関に挑戦できる。」

但し、石像に捕まると引きずり込まれ失格となる。ちなみに石像の鼻のボタンを押すと、押した挑戦者が犠牲になる代わりに、石像が少し下がり、他の挑戦者が生き延びるための時間を稼ぐことが出来る。」

可符香「よし、がんばるよー。」

女ナレ「それでは、うつぶせに寝てください。」

3人はうつぶせに寝る。

アイヤーホイヤー

羽美「あ、始まったわね。」

女ナレ「移動まで、3、2、1、0。」

ドゴーーーーー！

3人「きゃあああーーーーー!!」

3人は石像の所まで引きずり込まれる。

そして3つの扉が閉まっていく。

カエレ「扉が閉まっていくわよ……。」

3人は砂にまみれた状態になる。

羽美「ああもう、砂が……。」

そして石像の目が光り……、

プシューーーーーッ!!!!

鼻から砂を出して石像が動き出した。

チャレンジ開始

ここからは可符香↓可、羽美↓羽、カエレ↓カと省略します。

羽「動いたわよ!逃げないと!」

3人は第1の扉に向かう。

可「早く問題出て。」

女ナレ「第1の扉、さかさ言葉クイズです。

片方から読むと吐くこと、逆から読むと蚕かいこからできるものになる、

3文字の言葉になるように並べなさい。」

羽美は砂をどかして、文字ブロックを見えるようにする。

くいうきとか

男ナレ「このクイズではお題に合わせてどちらから呼んでも成立する言葉を並べる。扉にあるひらがなブロックを使って答えるというもの。わかるかな？」

可「吐くことって何かしら？」

羽「くうき・・・はどうかしら？」

カ「きうくなんて言葉は知らないわね。」

考える3人。

羽「蚕からできるというのは結構重要なんじゃない？」

可「確か蚕は・・・、あっこれいいんじゃない？生糸。」

羽「きいと・・・、といき・・・、あっ吐息ね！」

羽美は、『といき』と置く。

カチッ

ピンポンピンポーン

正解　といき

↓吐息　生糸↑

第1の扉が開く。

カ「次は第2の扉ね。」

可「早く行かないと来ちゃうよ。」

3人は第2の扉に着く。

女ナレ「第2の扉を開けるには、ジャンルクロスクイズに3問正解しなければなりません。」

羽「3問!?! 厳しいわね・・・。」

女ナレ「ジャンルは魚です。」

女ナレ「このクイズは、?の中に指定された言葉を入れて、縦・横成立させる言葉を成立させるというもの。先に魚の名前から考えるとわかるかも?」

女ナレ「第1問。」

は

い

?　せいよう

いりばさたぶこら

この場合、縦は『はい』から始まる言葉を作り、横は『せいよう』で終わる言葉を作る。

可「最後は『せいよう』？」

カ「何かしら？」

羽「魚といってもいっぱいあるわね。」

可「さばは違うね。」

羽「えっと・・・、わかった、『たい』よ。大西洋、敗退・・・。」

可「それだね。」

『た』と『い』の文字をセットし・・・、

カチッ

ピンポーン

正解 は（敗退）

い

たい せいよう（大西洋）

可「やった！」

女ナレ「第2問。」

か
? っ
こ
も
の

羽「これは……。」

『た』と『い』の文字を一旦戻す。

可「『何々っこ』って何だろうね。」

カ「『か』で終わって、『もの』で終わるものは……。」

3人はブロックを見てみると、

可「あっ、『り』と『ぶ』があるよ。ぶりじゃないの?」

羽「あっ、かぶりものとぶりっこになるわ。」

可「そうそう。」

『ぶり』とセットし……、

カチッ

ピンポーン

正解か

ぶりっこ(ぶりっ子)

もの

(被り物)

羽「あと1問・・・。」

女ナレ「第3問。」

ぐ

う

あ？しい

カ「何これ？」

可「『ぐう』が最初？」

羽「何があったっけ・・・？さば・・・こい・・・。」

3人は答えを探すが、検討がつかない。

とここで石像がデンジャーゾーンに突入！

可「あつ、石像が来ちゃうよ！どうする！？」

カ「誰かが犠牲にならないといけないわ！」

石像が迫り来る！

と、その時羽美の顔色が変わる。

羽「カエレさん、ちょっと来て。」

カ「何？」

羽美は狂気的な雰囲気になっている。

どうやら本性が出たようだ。そして・・・、

羽「えいっ!!」

カ「な、何するの!？」

羽美はカエレを押し出した。

そしてカエレの手が石像の鼻に・・・、

カチッ

身代わり 木村カエレ

カ「ちょ、ちょっと・・・!」

プシューーーーーッ!!

カエレが引きずりこまれようとする。

カ「あんた、なんて事を……。告訴してやる……。訴えてやる。

・・!」

カエレは恨めしい目で羽美を見る。しかし羽美は、

羽「か・え・れ! か・え・れ!」

こう言った。

カ「あああ・・・!」

カエレは「帰れ」という言葉を敏感に聞き、混乱する。そして・・・

ドゴーーーーン!

カ「きゃあああーーーー!」

カエレが石像に飲み込まれてしまった。

プシューーーーーッ!

可「ありゃー、カエレちゃん、気の毒に・・・。」

女ナレ「カエレさん、失格です。」

ーーーーー

ボッスン「あはははは!」

神楽「これはかなり笑えるアルね! 訴えてやるってね・・・。」

ヒメコ「かわいそうやわ、アイツ！」

失笑する人が出てくるサポートルーム。

しかしニヤニヤしている人物が、

古市（カエレさんのパンツ、少し見えた・・・！）

――――

男ナレ「木村カエレ、本性を表した羽美によって、無理やり身代わりにさせられ、最後に『訴えてやる！』と叫んで、脱落。」

しかし、カエレの犠牲により、3mの余裕が出来た。

羽美は平常な状態に戻る。

羽「一体何の魚が入るの？」

すると可符香が、

可「わかった！たらだよ。ぐうたらになるよ」

羽「あ、そう言われれば・・・、それから新しいにもなるわね。」

急いで『たら』とセットし・・・、

カチッ！

ボタンを押した。

ピンポンピンポーン

正解

ぐ（ぐうたら）

う

あたらしい（新しい）

そして第2の扉が開く。

可「あとあの扉だけね。」

羽「早く行きましょう。」

2人は第3の扉に向かう。

果たして2人はクリアできるか・・・。

サンマガチーム 石像の間 後編

石像の間に挑戦中のサンマガチーム。可符香・カエレ・羽美。しかしカエレの（羽美によって無理やり）犠牲により、残り2人となった。

果たして残り2人でファラ男像を獲得できるか……。

第3の扉に向かう可符香と羽美。

可「次の扉で解ければ……。」

女ナレ「第3の扉を開けるには、人物名前並べ替えクイズに3問正解しなければなりません。」

羽「ここも3問正解が条件なのね……。」

女ナレ「第1問。全ての文字を使い、声優の名前になるように並べなさい。」

うさわちとい

羽「これは……。」

考える2人。

可「えーとね、さい、と……。」

羽「さいとう……、斉藤千和！」

可「あ、それぞれ!」

羽美は並べ替える。

さいとうちわ

羽「これよ!」

羽美はボタンを押す。

カチッ

ピンポーン

正解 齊藤千和

可「次、次。」

女ナレ「第2問。全ての文字を使い、アニメキャラの名前になるように並べなさい。」

ぐすあらかざなか

羽「なんか難しくない?」

可「これはちょっと難しそう。」

2人は懸命に考える。

羽「あらか……。」

可「なか・・・。」

色々とブロックを動かす。

その間にも石像は迫ってくる。

羽「この『ざ』と『ぐ』がポイントなのよね・・・。」

可符香が考えていると、

可「かぐ、かぐら、かぐらざか・・・、神楽坂明日菜！ネギまの！」

羽「あっ可符香ちゃん、すごい！」

可符香はブロックを並べて・・・、

かぐらざかあすな

そしてボタンを押す。

カチッ

ピンポーン

正解 神楽坂明日菜（魔法先生ネギま！）

可「あと1問だね。」

――――

サポートルーム

改蔵「順調だな。」

ボッスン「これやべーな……。」

――――

女ナレ「第3問。全ての文字を使い、7文字のアニメキャラと4文字の食べ物の名前になるように並べなさい。」

まらなとめうーきずんる

羽「4文字の食べ物？」

可「食べ物から考えたら良くない？」

羽「そこに行く？」

2人は文字から食べ物を探す。

可「この伸ばし棒って食べ物の文字かな？」

羽美は考えていると、

羽「らーめ……、ラーメンじゃない！？食べ物は。」

可「そうかも！」

まずラーメンと入れる。

羽「あとは名前……。」

あとは名前を入れるだけ。

とここで石像がデングジャーゾーンに！

羽「あっ、来たわ！どうするの！」

可「私行きたくないよ。」

可符香がそう言うのと羽美の狂気的な本性が再び出ようとする。

可「あっ、羽美ちゃん……。」

可符香はそれに気づいたようで、可符香は何か考えた。そして……

可「羽美ちゃんの心のスキマは……。」

可符香は言うのと羽美は、

羽（あっ、可符香ちゃんのこの企みは……。聞きたくない！）

羽はそう思うと石像の所へ行き、ボタンを押そうとする。

カチッ

身代わり 名取羽美

プシューーーーーッ！

ウオオオオオオオ・・・

羽美は引きずりこまれようとする。

羽「可符香ちゃん・・・。」

羽美は狂気的な雰囲気で可符香を見る。

可「何？」

羽「呪ってやる・・・呪ってやる・・・。」

そして、

ドゴーーーーーン！

羽「きゃあああああああ！！」

羽美は石像に飲み込まれてしまった。

プシューーーーー！！

女ナレ「羽美さん、失格です。」

可「羽美ちゃん、後は私が頑張るからね。」

ーーーーー

改蔵「羽美、食べられたか・・・。」

タカトシ「でも名取、最後怖すぎたな・・・。」

タカトシは少し羽美の事を恐れていたようだ。

――――

男ナレ「名取羽美、最後可符香に対し狂気的な雰囲気で『呪ってやる』と言い残し、脱落。」

羽美の犠牲により、石像は3m後退した。

男ナレ「正解まであと1問！果たして可符香は正解できるか！？2人の犠牲を無駄にするな！」

可「これあんまり見たことない名前っぽいね。」

可符香は色々とブロックを動かす。

可「まきうず・・・うずまき・・・、あつわかった！うずまきナルト！」

可符香はブロックを並び替える。

うずまきになると　らーめん

可「えいっ！」

ボタンを押した。

ピンポンピンポーン

正解 うずまきナルト ラーメン（NARUTOーナルトー）

可「やったあ！これで扉が開く！」

プオーン

石像が一時停止する。

そして扉が開く。

――――

ナギ「よし！まず並び替え問題は終わったな！」

ハヤテ「でもまだフアラ男像獲得したわけではありませんよね？」

ボッスン「うわあ、これ悔しいな。」

神楽「なかなかやるネ。」

――――

扉が開き、可符香は前へ進む。

そしてモニターにフアラ男が現れる。

ファラ男「可符香ちゃん、怖かった？」

可「ちょっと怖かったね。」

笑顔な表情を見せる可符香。

ファラ男「でもあの2人の食べられる前の最後の言葉、おもしろかったね。『訴えてやる!』に『呪ってやる!』って……。」

可「でもそんなこと私にもどうでもいいことだから。」

男ナレ「ここからは最後の難関、並べ替えの試練!

これから目の前のボックスのフタが開き、4枚の石版が出てくる。

順番を問うクイズに答え、正解すればファラ男像を獲得できる! 但し、解答のチャンスは2回まで。1回目で間違えた場合、置き場所合っている石版の数だけ右上の数字が表示されるので、それを元に推理して正解を導き出せ!

制限時間は1分30秒。」

例・球の直径が大きい順に並べよの場合。

ピンポン玉 野球のボール テニスボール ビリヤードの球

この場合、1・野球のボール 2・テニスボール 3・ビリヤードの球 4・ピンポン玉となる。

2回間違えたら、残っている人全員が石像に飲み込まれる。

数字が表示されるが、どこの位置が正解なのかは教えられない。

ファラ男「それでは石像よ！スタート位置に移動せよ！」

石像がスタート位置にまで移動する。

可「ここからが本番だね。」

女ナレ「それでは、並べ替えの試練、スタートです。」

並べ替えの試練開始

プシューーーー！！

石像の鼻から砂が出てくる。

そして1分30秒からのカウントダウンが始まる。

女ナレ『問題・スフィアのメンバーでソロCDデビューしたのが早い方から順に並べなさい。』

選択肢 寿美菜子 高垣彩陽 戸松遥 豊崎愛生

可「えーとこれは、戸松遥ちゃんは1番先よね？」

戸松遥の石版を1番に置く。

可「次は確か、愛生ちゃんだね。」

豊崎愛生の石版を2番に置く。

可「美菜ちゃんと彩陽ちゃん、どっちが先にCD出したかな？」

考える可符香。

可「いや絶対とまっちゃんと愛生ちゃんは絶対ここだから、あとの2人はどっち選んでもいいか。どうせチャンスは2回までだし。それじゃまず彩陽ちゃんを3番にして、美菜ちゃんを4番にしちゃうかな。」

3番を高垣彩陽の石版、4番を寿美菜子の石版を置き、

可符香「えいっ！」

カチッ

ボタンを押した。

ピンポンピンポーン

正解

可「やったあ！」

プオーオーン

石像が止まる。

女ナレ「並べ替えの試練、成功です。」

可「よかった、よかった。」

とても笑顔で喜ぶ可符香

解説 戸松遥 2008年9月3日

豊崎愛生 2009年10月28日

高垣彩陽 2010年7月21日

寿美菜子 2010年9月13日

――

ナギ「見事だぞ、可符香。」

シノ「これはさすがだな。」

喜ぶサンマガチームの面々

ヒメコ「やっぱり、解かれてもうたか。」

ボッスン「しゃーねーな、これは。」

神楽「また差が広げられたアルね。」

――

そして石像が後退していく。

男ナレ「風浦可符香、並べ替えの試練をあっさりとクリアし、マガジン・マガジンチーム、フアラ男像1体獲得！」

宝箱のロックが解除され、フアラ男像が出てくる。

可「カエレちゃん、羽美ちゃん、やったよ。」

可符香はフアラ男像を持って部屋を出る。

3人はサポートルームに戻る。

改蔵「本当にすごかったな。」

可符香「でもこれは私だけの力で取ったわけじゃないからね。」

カエレ「そこは融通の利くところがあるわね。」

シノ「でもあの2人の飲み込まれっぷりはおもしろかったぞ。『訴えてやる』に『呪ってやる』……。」

羽美「ちょ、ちょっと言わないでよ！まあフアラ男蔵取れたから良しとしましょう！」

一方ジャンプチームは……、

ボッスン「銀さん、食いすぎだな甘いもの。」

新八「そーでしょ、皆さん。」

テーブルにケーキの食べた後の皿が並んでいる。

銀時「オレは糖分取らないと力出ねーんなよ。」

そして横で同じように食べている神楽。

ヒメコ「全くこれには呆れるものやわ。」

ボッスン「ていうかお前もペロキャン食べすぎだろ！」

ヒメコのペロキャンももう5本目だ。

男鹿「まったく暇だな・・・。」

出番無くてあくびしている男鹿。

ベル坊「た・・・ぶ・・・。」

ベル坊は寝ている。

一方、古市は見えない所で、

古市（カエレさんのパンツ、少し見えて興奮したなあ・・・！）
ムラムラ状態になっていた。

カエレに見つかったら大変なことになりそうだ。

スイッチ「相手チームのデータを調べてみたが、色々とあなどれない連中ばかりだな。」

スイッチは相手チームのデータを調べていたようだ。

次はジャンプチームが挑戦。

ジャンプチームの挑戦 壁の間 その1

ジャンプチームが挑む第2ステージは壁の間。

この部屋にはクイズゾーンとチャレンジゾーンとセーフティゾーンの3つのゾーンがあり、宝箱はセーフティゾーンにある。クイズゾーンとセーフティゾーンの間にあるチャレンジゾーンの長さは10m、高さ3m。そして通路の真ん中には怪しげなボックスがある。一体これから何が始まるというのか・・・。

ジャンプチームで挑戦するのは、ボッスン・志村新八・邦枝葵。この3人はどんな活躍を見せるのか!?

3人は部屋に入る。

邦枝「ここが私たちが挑む部屋ね・・・。」

新八「ここで何が始まるんですかね・・・。」

ボッスン「これ、しっかりと閉まってるな。」

ボッスンは檻風の扉を手で触って動かす。

そしてモニターにフアラ男が現れる。

フアラ男「フアラフアラフアラフアラ、ようこそ壁の間へ! 葵ちゃーん、ここの居心地どう?」

早速フアラ男は邦枝に声を掛ける。

邦枝「ま、まあ別に居心地が悪くはないけど・・・。」

ファラ男「それからTOREのゲームを挑戦して、わくわくしそう？」

邦枝「そ、そうね、少しはわくわくするかな？」

照れている邦枝。

ファラ男「それでは今からルールを……。」

ファラ男がルールを説明しようとした時、

ボッスン「ちょっと待て！」

新八「僕たちは！？」

ボッスンと新八がファラ男にしゃべる。

ファラ男「あら、君たちいたの？」

ボッスン「いたよ！」

新八「はじめからいましたよ！」

ファラ男「君たち2人、地味だから気付かずに、葵ちゃんに視線が全ていっちゃった。」

ボッスン・新八「おいおい……。」

ファラ男の言葉にボッスンと新八は呆れる。

ファラ男「それではこの部屋でファラ男像を獲得するためのルールを説明しましょう。」

男ナレ「この部屋はこれから左右の壁が迫ってくる。まず挑戦者たちは、壁にあるアンサーボックスに顔と手を入れる。アンサーボックスにはAとBの選択ボタンがあり、ここから3人は2択の全員正解クイズに挑む。全員正解クイズに3問正解すれば、壁が止まり、1人ずつ最後の試練に挑戦できる。」

ファラ男「それでは幸運を祈ります。バイバーイと。」

モニターからファラ男が消える。

アイヤーホイヤー

ボッスン「もうすぐ始まるな。」

チャレンジ開始

女ナレ「チャレンジスタートです。」

そして壁が動き出す。

邦「壁が本当に動いているわね。」

新「なんか怖いですね・・・。」

壁の幅のスタート時は3m60cm。

ここからは、ボッスン↓ボ、新八↓新、邦枝↓邦と省略します。

問題・混ぜると緑のなる色の組み合わせはどっち？

A・赤と青 B・青と黄色

5

新「これはわかりますね。」

ボ「ああ。」

4

3

2

1

テレン！

ボッスン B 新八 B 邦枝 B

女ナレ「正解は、Bでした。」

ピンポーン

赤と青は、紫になる。

女ナレ「1ポイント獲得です。」

ボ「まずは1問・・・。」

問題・服のサイズで『L』を表すのはどっち？

A・ロング B・ラージ

5

邦「どっちだったかしら？」

4

3

2

1

テレン！

ボッスン B 新八 B 邦枝 B

女ナレ「正解は、Bでした。」

ピンポーン

女なれ「2ポイント獲得です。」

新「あと1問ですね。」

問題・食物繊維が多いのはどっち？

A・サツマイモ B・キャベツ

5

4

ボ「これどれだ？」

新「なんか難しい・・・。」

3

2

1

テレン！

ボッスン A 新八 A 邦枝 B

邦「あっ・・・。」

女ナレ「正解は、Aでした。」

解説 100グラム当たりの食物繊維 サツマイモ 2. 3グラム

キャベツ 1. 8グラム

邦「申し訳ないわね。」

ボ「いや、1問間違えたただけだ。まだ大丈夫だ。」

問題・五角形の角度はどっち？

A・540度 B・720度

5

ボ「わ、オレの苦手分野……。」

4

3

2

1

テレン！

ボッスン B 新八 A 邦枝 A

女ナレ「正解は、Aでした。」

新「何やってるんですか、ボッスンさん！」

ボ「わりい、すまねえ……。」

問題・双子キャラで声が同じなのはどっち？

A・双海姉妹（アイドルマスター） B・柊姉妹（らき☆すた）

5

ボ「確かこっちだったはず・・・。」

4

3

2

1

テレン！

ボッスン A 新八 A 邦枝 A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ピンポンピンポーン

ボ「よし！これで壁が止まるな。」

壁 一時停止

そして壁が止まる。2m39cm。

女ナレ「3ポイント獲得したため、壁が止まりました。」

ボ「ちょうどいい長さで止まったな。」

女ナレ「次の試練に挑戦する人を1人選んでください。」

ボ「誰が行くか……。」

新「邦枝さんがいいんじゃないんですか？レディーファーストということで。」

ボ「そうか？じゃあ邦枝が先ということでもいいか？」

邦「わかったわ。じゃあ私が先ね。」

男ナレ「ここからは、ファラ男像を獲得するための鉄球の試練！まずは2本の棒の上に鉄球を転がして、筒の中に入れる。筒の中に落とすとカギが出てくる。この時、微妙な加減で棒を開き、起状を乗り越えることが重要となる。そして取れたカギを通路にあるカギ穴に差し回せば、宝箱のロックが1つ解除される。最終的に3本のカギを回して開けると、宝箱が開き、ファラ男像を手にすることができる。但し、30秒を過ぎると壁が一気に閉まり、閉じ込められると、チャレンジ失敗となる。」

女ナレ「邦枝さん、鉄球の試練、スタートです。」

ビーーーー

そして扉が開く。

同時に30秒のカウントダウンが始まる。

邦枝はボックスの所に向かう。

邦枝は棒を握る。

最初の鉄球が出てくる。

棒を開いて、前に動かそうとするが、

コトツ

落ちてしまった。

ボ「慎重にやれよ。」

邦「わかってるわ。これは慎重に……。」

再び鉄球が出てくる。

そして棒を開いて鉄球を動かす。

スルル……

うまく前に動かした。

邦「うまく入れれば・・・。」

邦枝は鉄球を筒に入れようとするが、

コトツ

惜しくも落ちてしまった。

ボ「ああ、惜しいな。」

新「邦枝さん、がんばってください！」

|||||

サポートルーム

古市「邦枝せんぱーい！落ち着いてやってください！」

ヒメコ「大丈夫や、葵なら絶対成功するねん。」

ヒメコは邦枝が成功することを信じているようだ。

|||||

4個目

残り15秒。

棒で鉄球を動かす。

スルル・・・

うまく鉄球が前に進んだ。

邦「ゆっくりと慎重に……。」

邦枝は鉄球を慎重に穴に入れようとする。

コロン

入った。

新「よし！」

ボ「いいぞ！」

そしてカギが出てくる。

邦「後はこのカギを……。」

邦枝はカギを掴み、カギ穴に所に行き、カギを差し込む。

そして走ってセーフティゾーンに向かう。

邦「よし、これでもう私はもう大丈夫ね。」

邦枝は一安心した表情をする。

そして警告音が鳴り、壁が閉じていく。

――――

古市「やったー！さすが邦枝先輩！」

ヒメコ「アタシの言った通りやろ？アイツは絶対成功するって。」

男鹿「さすが邦枝って感じだな。」

ジャンプチームは喜ぶ。

ハヤテ「あの人、本当はかなり慎重にやっていましたね。」

シノ「あれは慎重にゆっくりやらないと成功しないからな。」

サンマガチームも賞賛の声を来る。

――――

女ナレ「宝箱のロックが1つ解除されました。」

ピ――

宝箱のロックが1つ解除される。

邦「まずは1つ目ね……。」

男ナレ「さすが邦枝葵！終始冷静になっていて、見事カギをゲット！」

チャレンジゾーンの壁が開いていく。

ボ「よくやったな！」

新「快調な滑り出しですよ！」

邦「そうね、あなたたちもこの後がんばってちょうだいね。」

ボ「よし新八！邦枝に続いてオレたちもカギを手に入れるぞ！」

新「わかってます！」

宝箱のロックが解除されるまであとカギは2本。

果たして他の2人も邦枝に続いてカギを取れるか……。

ジャンプチーム 壁の間 その2

壁の間に挑戦中のボッスン・新八・邦枝。

邦枝が鉄球の試練で1本目のカギを取り、ファラ男像獲得まであとカギは2本となった。

果たして他の2人も邦枝に続いてカギを取ることができるか・・・。

ボ「よし、オレたちもがんばるぞ！」

新「はい！」

2人はアンサーボックスに顔と手を入れる。

女ナレ「再び、壁が動き出します。」

壁 再始動

壁が動き出す。2m39cmからスタート。

新「また壁が動いてきた！」

問題・すいかはどっち？

A・西瓜 B・南瓜

5

新「これはわかります！」

4

ボ「うーん、これか？」

3

2

1

テレン！

ボッスン A 新八 A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ピンポーン

解説・南瓜はかぼちゃ。

女ナレ「1ポイント獲得です。」

問題・夏至はどっち？

A・6月 B・7月

5

4

ボ「え、どれだ!？」

3

2

1

テレン!

ボッスン B 新八・A

ボ「ああゝ!」

女ナレ「正解は、Aでした。」

ブーッ

新「ちよつと!」

ボ「焦りすぎた……。」

問題・翼があるのは、どっち?

A・ヤマネコ B・ウミネコ

5

ボ「なんだこれ!？」

4

3

新「考えてみるとこれに翼があるとは思えないから……。」

2

1

テレン！

ボッスン B 新八 B

女ナレ「正解は、Bでした。」

ピンポーン

ボ「あぶねえ、あぶねえ……。」

女ナレ「2ポイント獲得です。」

問題・桓武天皇が作ったのはどっち？

A・平安京 B・平城京

5

4

3

ボ「あゝ、どっちだ!？」

2

1

テレン!

ボッスン B 新八 A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ブーッ

平安京を作ったのは元明天皇。

新「ちよつと、何やってるんですか。」

ボ「うわっ、オレビビってるな・・・。」

~~~~~

サポートルーム

ヒメコ「何やつとんねんボッスン・・・!」

呆れるヒメコ

神楽「しっかりしてほしいアルね！」

~~~~~

問題・今年のAKB48じゃんけん大会で優勝したのは？

A・小嶋陽菜 B・篠田麻里子

5

ボ「あ、これはわかるな。」

4

3

2

1

テレン！

ボッスン B 新八 B

女ナレ「正解は、Bでした。」

ピンポンピンポーン

壁 一時停止

壁が止まった。1m26cm。

ボ「止まったな。」

女ナレ「3ポイント獲得したため、壁が止まりました。」

新「こんなに狭くなりましたね。」

ボ「確かにそうだな・・・。」

狭くなった壁に驚愕する2人。

女ナレ「次の試練の挑戦する人を1人選んでください。」

ボ「どっちが行くか・・・。」

新「僕が行きましょうか?」

ボ「お前でいいのか?」

新「僕がカギを取って、ボッスンさんにうまく回しますから。」

ボ「じゃあそれで行こう。」

女ナレ「新八さん、鉄球の試練スタートです。」

ビーーーーーー

扉が開く。そしてタイマーが動く。

新八はボックスの所に行く。

新「よし、これを……。」

新八は棒を動かす。

鉄球が出てきて前に動かすが落ちた。

新「これは……、慎重に……。」

再び、鉄球が出てきて棒を動かし、前に移動しようとする。

スルッ

しかし前に行かず、後ろに戻ってきた。

再び、やり直す。

コトッ

しかし、また落ちた。

新「緊張しますね……。」

ボ「冷静になれよ！」

女ナレ「20秒前。」

新八は棒を動かし、鉄球を動かそうとするが、また落ちた。

新「ああっもう全然前に行きません!」

邦「頑張って、新八。」

||||||||||||||||||||||||||||||||||||

神楽「新八、慎重にやるネ!慌てないことが大切アル。」

銀時「これは俺たちの勝利に影響するんだ。絶対取れよ。」

銀さんは腕を頭につけながら言う。

||||||||||||||||||||||||||||||||||||

苦戦している新八。

これで5個目である。

棒で鉄球を前に進める。

スルル・・・

前に行った。

女ナレ「10秒前。」

残り

新「よし、あと少し・・・。」

鉄球を筒にまで動かそうとする。

コトツ

しかし落ちた。

新「あぁっ、あと少しだったのに。」

ボ「落ち着け！新八！」

邦「がんばって！」

時間が無くなるためか、プレッシャーが押し掛かる新八。

焦ってまた鉄球を落とした。

新「ううう・・・。」

残り5秒となった。

――――

神楽「時間ないアルよ、新八！」

ヒメコ「カギを取れるかが微妙になってきょうたな。」

――――

新八は鉄球をうまく前に動かした。

新「よし、今度こそ・・・。」

鉄球を筒に入れようとする。

コトツ

またもう少しの所で落としてしまった。

新「ああっ・・・。」

そして0秒となり・・・。

ビーーーー ビーーーー

ブザーが鳴り始めた。

そして壁が動き出す。

新「わああああ!」

新八は壁に押しつぶされてしまった。

ボ「新八ーーーーっ!」

邦「新八・・・。」

新「やっぱり僕はこんなものなのでしょうか・・・。」

そして壁が閉じていった。

女ナレ「新八さん、チャレンジ失敗です。」

――――

ヒメコ「あちゃー……、新八のヤツ、潰れたあげくにカギも取れんとは……。」

神楽「やっぱり新八は、ああいう男であるネ。」

銀時「なさけねーな、アイツは。」

――――

男ナレ「志村新八、クイズはできても、カギが取れず、いい所を見せられず、脱落。」

ボ「ということは、オレがカギ2本取らなきゃいけないってことか！？」

邦「そのようね。」

男ナレ「宝箱のロックが開くまで残りのカギは2本のまま。ここでボッスンがカギを取れなければ、クリアとはならない！」

ボ「よし！スケット団部長の名にかけて、絶対に2本取ってやる！」

ボッスンはかなり気合が入った。

――――

ヒメコ「ボッスン、えらい本気やな。」

スイッチ「ボッスンがカギを取ってクリアしないとこのチームの勝利が厳しくなる。」

――――――――――

果たしてボッスはカギを2本取ってクリアすることができるか・・・。

ジャンプチーム 壁の間 その3

壁の間に挑戦しているジャンプチーム。

新八はカギを取ることができず、チャレンジ失敗となる。

カギを取るためには残り2本必要。

残っているのはボッスン。

果たしてボッスはカギを2本取ることができるか……。

ボ「オレが決めなきゃならなかったな……。」

そう言うときボッスはアンサーボックスに顔と手を入れる。

女ナレ「再び、壁が動き始めます。」

壁 再始動

壁が動き出す。

問題・先に連載が始まったのは、どっち？

A・NARUTO（ナルト） B・BLEACH

5

ボ「確かこれだな。」

4

3

2

1

テレン！

ボッスン A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ピンポーン

NARUTO 1999年 BLEACH 2001年

女ナレ「1ポイント獲得です。」

問題・巖流島の戦いで勝ったのは？

A・佐々木小次郎 B・宮本武蔵

5

4

3

ボ「えっと・・・」

2

1

テレン！

ボッスン B

女ナレ「正解は、Bでした。」

ピンポーン

女ナレ「2ポイント獲得です。」

ボ「あと1問・・・。」

問題・天気予報の番号はどっち？

A・117 B・177

5

ボ「ああ、どっちだ！？」

4

3

2

1

テレン！

ボッスン A

女ナレ 「正解は、Bでした。」

ブーッ

117は時報。

ボ「やっちゃまった……。」

壁は除々に近づいていく……。

邦「落ち着いて……。」

問題・5000円札に描かれているのはどっち・

A・樋口一葉 B・与謝野晶子

5

4

ボ「多分……。」

3

2

1

テレシィン！

ボツスン
A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ピンポンピンポーン

壁一時停止

そして壁が止まる。48cm。

ボ「うわっ、すごくせめーな・・・。」

ボッスンはかなり狭くなつた壁に驚愕する。

女ナレ「3ポイント獲得したため、壁が止まりました。次の試練に進んでください。」

「あなたが2本取らないとクリアとはならないのよ。」

ボ「それはわかってる！絶対2本取る！」

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
84

サポートルーム

神楽「2本は難しいんじゃないネ？」

ヒメコ「いや、あいつはやってくれるハズや。あれを使えば……。」

スイッチ「そう、ボッスンはあれを使って集中力を高める。」

ハヤテ「あれって言うのは……？」

――――――――――

男ナレ「ボッスンがカギを2本取らなければ、ジャンプチームはフアラ男像を獲得することが出来ない！ 全ては、ボッスンに託された！」

ボ「よし、ここでゴーグルを装着して、集中モードに移行だ！」

そしてボッスンはゴーグルを装着した。

――――――――――

ヒメコ「よっしゃ！ ボッスン、集中モード突入や！」

タカトシ「あれで2本取れるようになるのか……？」

――――――――――

男ナレ「ボッスンはトレードマークのゴーグルを装着し、集中力を高め、全ての準備を整える！」

女ナレ「ボッスンさん、鉄球の試練スタートです。」

ビーーーーー

扉が開き、時間も経ち始める。

ボッスはボックスに向かう。

ボ「・・・。」

ボッスは無言で棒を掴む。

鉄球が出てくる。

そして動かす。

コロロ・・・

移動させようとしたが、鉄球が戻ってくる。

すかさずやり直し。

スルル・・・

鉄球がうまく前に行く。

そして慎重に筒に入れようとする。

コロソ

球が筒に入り、1本目のカギが出てくる。

邦「よし、まず1本目。」

邦枝は見守る。

――――――――――

ヒメコ「よし、1本目や！」

古市「あと1本！」

神楽「頑張るアル！」

応援するジャンプチーム。

――――――――――

鉄球が出てくる。

女ナレ「20秒前。」

ナレから声が出てもボッスンは無言だ。

ボッスンは鉄球を前に移動させようとするが、

コロロ・・・

惜しい所で戻ってくる。

そして仕切り直し。

棒を広げて前に進める。

スルル・・・

うまく進めた。

邦「あと少し・・・。」

邦枝は祈りをささげる。

そしてボッスンは鉄球を筒に入れようと、棒をうまく調節している。

そして鉄球を筒に落とそうとする。そして・・・、

コロン

筒に鉄球が入った。

そして2本目のカギが出てくる。

ボ「よし！」

――――――――――

ヒメコ「よっしゃ！」

古市「行ける行ける！」

神楽「あとはカギを差すだけネ！」

ジャンプチームは興奮する。

――――

ボッスはカギを2本取り、差し込みに行く。

女ナレ「10秒前。」

ボッスは1本目、そして2本目のカギを差し込んだ。

ボ「よし、余裕だ！」

そしてボッスはセーフティゾーンへ走る。

ボ「うおおおお！」

ボッスは余裕でセーフティゾーンに行った。

ボ「よっしゃあああ！！！」

ボッスはガッツポーズをする。

邦「本当にうまくカギ2本取ることができたわね！」

邦枝もボッスンを褒める。

「……………」
ヒメコ「よっしゃああ!!」

古市「ボッスン、よくやった!」

神楽「ホントにすごいアル!」

銀時「やってくれるじゃねーか。」

男鹿「確かにやってくれたな。」

ベル坊「だぶ!」

スイッチ「集中モードに入ったボッスンの能力は計りしれない。」

ジャンプチームは大喜び。

可符香「あらあら、クリアしちゃったねー。」

シノ「でも彼の活躍にはほめてあげよう。」

サンマガチームも賞賛の声が浴びる。

「……………」

男ナレ「見事なボッスン!集中モードで常に冷静な状態でカギを2

本取することに成功！」

ボ「はあ、これは本当に疲れたな。」

ボッスンはゴーグルを外す。

女ナレ「宝箱のロック、解除成功です。」

ピーーーー

そして宝箱のロックが開く。

邦「開いたわ。」

2人は2体のファラ男像を手に入れる。

男ナレ「邦枝とボッスンの見事な活躍でジャンプチーム、ファラ男像2体獲得！」

3人はサポートルームに戻る。

ヒメコ「やっぱボッスン、最後見せ場作ったなー。」

ボッスン「これは正直オレもドキドキしたけどな。」

神楽「最初ボッスン、クイズ間違えまくったりしてダメな男だと思ったけど、カギ取れずに終わった新八が本当のダメな男アルね。」

新八「よ、余計なお世話だよ！」

新八はあせった表情で言う。

スイッチ「しかしこれで同点に追いついたわけだ。」

シノ「次のステージでどちらが多く取れるかだな。」

改蔵「というか、ファラ男像の必要あるのか？別に普通に得点表示すればいいだけと思うが。」

羽美「これがこの番組の特徴なの！」

可符香「ははははは、」

改蔵と羽美のやりとりに笑う可符香。

次は第3ステージ。ジャンプチームが挑戦。

ジャンプチームの挑戦 洞窟の間 その1

第3ステージは洞窟の間。

部屋の中には、1・2・3と書かれた小さな扉、不思議な形の宝箱、そして『ここ開けて』と書かれた壁がある。

この部屋にはどんな仕掛けがあるのか・・・。

まずはジャンプチームから挑戦。

挑戦するのは、男鹿辰巳・スイッチ・神楽。

自由すぎるメンバーばかりだが、果たしてこの部屋を攻略できるか！？」

3人は部屋の中に入る。

男鹿「何なんだ、これは？」

神楽「ここに何か番号が書かれているアルね。」

神楽は番号のある扉を見る。

スイッチ「この壁に何か書かれているな。」

3人はその壁を見る。

神楽「『ここ開けて』と書いてアルね。とりあえず開けて見るネ。」

神楽はそのフタを開ける。

フタを開けるとモニターがあった。

神楽「何だ、モニターじゃないかアルね。」

そしてモニターにフアラ男が現れる。

フアラ男「ファアーラファラファラファラ、ようこそ洞窟の間へ！神楽、男鹿と一緒にだけど、銀さんと比べて、何か雰囲気違う？」

神楽「そうネ。ちょっと暴力的な所はあるけど、意外と頼りになりそうな感じがするアル。」

男鹿「いいこと言うじゃねーか、お前。」

フアラ男「それからベル坊のことは？」

神楽「なかなかおもしろいと思うアルね。」

ベル坊「たーぶー。」

ベル坊は喜んでいる。

フアラ男「それからスイッチ、この2人はどうサポートするの？」

スイッチ「この2人は、スケット団と同じメンバーと思えばいい。」

――――――――――

サポートルーム

ヒメコ「スイッチ、えらい率直やなー。」

ボッスン「1番ポイントとなるのが男鹿だな。アイツはどんなことをするのか。」

ボッスは男鹿をこのステージでの1番のキーポイントと考える。

――――

ファラ男「それでは、この部屋でファラ男像を獲得するためのルールを説明します。」

男ナレ「まず3つの洞窟で、それぞれ3択問題に挑戦。洞窟の奥の方にある3つの宝玉の中から、正解と同じ色を選び、真実の台座に置いて解答。選択肢は祭壇でしか見ることができない。その為、1人が洞窟に入り、選択肢の文面を仲間に伝え、仲間に伝え、相談して答えを決めなければならない。問題に正解すると石版を獲得。この石版は最後の試練でファラ男像を獲得するための重要なアイテムとなる。不正解だと、洞窟の床が開き、奈落の底へ落下。制限時間は10分。」

ちなみに洞窟へ入ると一旦扉が閉まる。解答するまで開かない。

男鹿「へっ、床が開く前に俺が壁を壊して逃げれば……。」

ファラ男「1つ言っておくけど、扉を壊そうとしたら、センサーが反応して、床が開く仕組みになるからね。」

男鹿「うっ……。」

――――

古市「オレはちょっと一安心した・・・。」

ほっとする古市。

邦枝「不正は無しってことね・・・。」

――――

ちなみに洞窟の間でスイッチのパソコンのネット通信は遮断されている。これも不正の防止のためだ。

男ナレ「3人は通信機を使い、相談しながら3択問題の攻略を目指す！」

スイッチは通信機のインカムを音声合成パソコンの近くに置く。

ファラ男「それでは皆さん、がんばってくださいね、バイバイと。」

モニターからファラ男が消える。

アイヤーホイヤー

神楽「あ、始まったアル。」

女ナレ「チャレンジスタートです。」

そしてモニターに10..00と表示される。

ピーー

そしてカウントダウンが始まる。

神楽「時間が経っていくネ。」

男鹿「どんな問題が出てくるんだ。」

尚、ここからは、男鹿↓男、スイッチ↓ス、神楽↓神と省略します。

女ナレ「第1問。次のうち、漫画『DEATH NOTE』で、デスノートのルールで正しいものを次の中から選びなさい。」

神「デスノートのルールで正しいもの?」

そして1番の洞窟の扉が開く。

神「誰がいくネ?」

男「じゃあオレが行こう。」

神「そうか、じゃあ行くアル。」

男鹿はベル坊を背負っては洞窟の中に入る。

ス「選択肢は何だ?」

男鹿はモニターの選択肢を見る。

男「えーと、赤が『名前を4回間違えて書くとその人は殺せない』、青が『日時を指定した上で殺せる期間は30日以内』
黄色が『名前が書いていければシールなどで張ってもかまわない』だ。」

スイッチは男鹿の言われたようにボードに選択肢を書く。

ス「デスノートが終わってから何年も経っているな……。」

神「どれアルね……。黄色はなんか違う気がするネ。」

男「オレ、デスノートなんてわからねーからな……。」

3人は考える。

とここでベル坊が、

べ「たたたたた。」

男「ん？なんだ？」

ベル坊が指を指している。

指しているのは青の玉の方だ。

男「そうか、お前は青だと思うのか。じゃあ、青選ぶわ。」

男鹿がそう言うと神楽は、

神「ちょ、ちょっと待つアル！まだほとんど相談していないネ！」

神楽が止めようとする。

男「スイッチ、デスノートって、悪魔が関係しているものだけ？」

ス「デスノートは死神が関係しているものだ。」

男「ベル坊が青と言っているんだ。ベル坊は魔界から来た悪魔の子だ。死神も悪魔も同じようなものだろう？」

男鹿の個人的な解釈。

神「違うと思うアルね・・・。」

神楽は呆れた風に言う。

ス「男鹿、ホントにそれでいいのか？」

男「ベル坊がそうと思っているんだ。」

ベ「たぶ！」

ス「ベル坊が言うのなら、それで行くか？」

男「おう！」

神「自分はまだ完全に決めたわけじゃないけど、じゃあそれでもう行っているアルよ。」

――――

ボッスン「ちょっと待て！もうちょっと相談してから決めろって！」

古市「ああ、やっぱり男鹿、猪突猛進過ぎる。」

男鹿の行動に、呆然とする2人。

――――

男「よし、青だ！」

男鹿は青の玉を台座の上に置こうとする。

カチッ

置いた。

男ナレ「なんと男鹿、ほとんど相談も無しにベル坊の意見だけで青を選択！果たして男鹿の運命は！？」

ブーッ

不正解

男「何、違うだと!?!」

パカッ

床が開き、

男「うわあっ!」

ベ「たぶっ!」

男鹿とベル坊は落ちてしまった。

女ナレ「男鹿さん、失格です。」

神「男鹿の奴、バカすぎるネ……。」

――――

古市「ああ、男鹿。」

ボッスン「何やってんだよ、ちゃんと相談しろよ……。」

邦枝「全く男鹿ったら……。」

ジャンプチームは呆れる。

――――

男ナレ「男鹿辰巳、ほとんど仲間と相談無しにベル坊が指差した答えを選び、あえなく落下、脱落。」

男鹿がいなくなったことにより、再び扉が開く。

残り8分を切った。

神「じゃあ私が行くネ！」

神楽は洞窟の中に入る。

神「スイッチ、これ赤じゃないかネ？」

ス「オレもそう思う。」

神「だって、シール貼って殺せるんじゃない、ギャグみたいアル！デスノートはギャグなんてほとんどないネ！」

ス「そうだな、デスノートはシリアスでサスペンスものだから、ギャグなどないに等しい。」

神「それにデスノートって、本名書いても死なない場合もあったはずアル！」

ス「そうだ、特定の条件で本名を書いても死なない場合があったと聞く。」

2人は赤と確信しているようだ。

神「じゃあ赤を選ぶネ！」

神樂は青の玉をしまい、赤の玉を台座に置こうとする。

カチッ

置いた。

神「どうネ!？」

祈る神樂。

ピンポーン

正解

神「合っていたアル！」

喜ぶ神樂。

解説・日時を指定した上で殺せる期間は30日以内ではなく、
23日以内。

デスノートは、自筆でなければ殺せない。

――――

新八「よし、まず1問目正解です！」

銀時「まあ、あの問題、オレはあれだと思ったけどな。」

ボッスン「オレもそう思っていた、それなのに男鹿がな……。」

――――

そして3枚の石版が出てくる。そして扉が開く。

神「よし、まず1問目突破アル！」

神楽は3枚の石版を手に入れる。

神楽は洞窟から出る。

残りは7分。

果たして次の問題はどんなものか……。

ジャンプチーム 洞窟の間 その2

洞窟の間で第1問の問題を成功し、3枚の石版を獲得したジャンプチーム。

しかし、男鹿が奈落の底へ落ちたことにより、残りはスイッチと神楽となった。

果たして2人は頑張れるか……。

制限時間は7分になる。

女ナレ「第2問。次のうち、ドラマCD版『鋼の錬金術師 砂漠の大地』で、エドワード・エルリック役を演じた声優を演じたのは誰でしょう。ちなみにそのドラマCDのみ、アニメ版とは別の声優で、以降のドラマCDはアニメ版と同じ声優が演じています。」

そして2つ目の洞窟の扉が開く。

ス「ドラマCD版のエド役？」

神「これ、私行ってみるアル！私の中の人、アル演じたでアル！」

ス「アル言っているキャラの人が、アル演じる。まさにそんなことがあるある。」

神「そんな事、言っている場合ではないアル！」

—————

サポートルーム

古市「ぷっ、アルアルって……。」

笑う古市。

ボ「これは少し笑いそうになった。」

笑いかけるボッスン。

――――

神楽は洞窟へ入る。そして扉が閉まる。

神「赤が『高山みなみ』、青が『皆川純子』、黄色が『川上とも子』でアル！」

ス「なるほど。」

スイッチはボードに選択肢を書く。

神「どれと思うネ？」

ス「たぶんこれは、皆川さんと思っている。」

神「そうか。実は私もそれと思ってたネ。だって、アニメ版で演じていた朴さんとちょっと似てる感じがするアル。」

ス「でももうちょっと、考えた方がいいな。高山さんが演じていたということとは？」

神「うーん、ちょっと難しいネ。確か高山みなみさん、2期のハガレンでエンヴィー演じていたネ。」

ス「確かにそうだな。ドラマCDではこのキャラ演じていたが、アニメ版では別のキャラを演じたというケースもあるしな。」

神「そうネ。イメージしてみるとエドも合いそうな感じもするが、ドラマCDで演じたということも考えると、私の考えではちょっとなんか違う気がするアル。」

ス「なるほど、高山さんは違うと感じているのか。それでは川上さんの場合は？」

神「私、ちょっとイメージしてみたが少年声を思い出してみると、なんかエドとはちょっと感じが違う気がするネ。」

ス「ほう、そうか。」

神「だから、青の皆川さんにするアル。」

ス「そうだな、オレも異論はない。」

神「じゃあ、青アル！」

神楽は台座に青の玉を置こうとする。

カチッ

置いた。

神「絶対合っているアル！」

神楽は正解を確信するような顔をする。

ピンポーン

正解

神「やっぱり合っていたネ！」

そして3枚の石版が現れる。同時に扉も開く。

神「余裕アルね！」

神楽は石版を取って外に出る。

残りは5分を切っている。

ス「あと1問だな。」

女ナレ「第3問。次のうち、『さよなら絶望先生』で登場するキャラクターは誰でしょう？」

3つ目の洞窟の扉が開く。

神「よし、これも私行くネ！」

神楽は洞窟に入る。そして扉は開く。

神楽は選択肢を見て、

神「な、なんだこれは・・・？」

選択肢を見て、呆然とする。

ス「神楽、選択肢を早く教えてくれ。」

神「あ、赤が『糸色チル』、青が『助斗壇』^{すけとだん}、黄色は『出巢能登』^{ですのと}ネ・・・。」

スイッチは選択肢をボードに書く

神「こんな名前のキャラがどれかいるということアルか？赤はちよっとわからないネ。」

ス「それは絶対チル、絶対可憐チルドレン」の略だろう。」

神「あつ、そうアルか？」

神楽は納得する。

――――

ボ「お前ら、答え知ってるか？」

ボッスンは絶望先生のキャラである可符香とカエレに言う。

可符香「もちろんね。」

カエレ「知っているわよ。」

改蔵「それは誰なんだ。」

可符香「それはね・・・。」

可符香は改蔵と羽美に答えを言う。

改蔵「なるほどな・・・。」

ボッスン「おいおい、答えなんなんだ？」

ボッスンは気になるが、

可符香「教えな―い。」

こう返された。

――――

神「私全然わからないネ！」

神楽はあだこ言う。

ス「糸色ということは、絶望先生とつながりがあるのか？」

神「そんなのわからないアルよ！」

ス「絶望先生にはいろんな親族がいるが、このキャラが本当にいるかだな。」

神「『助斗壇』に『出巢能登』、これ明らかに『スケットダンス』と『デスノート』が元ネタヨ！」

ス「それはわかっている。」

神「結構、あの漫画パクリやパロディからネ。」

残り3分になろうとする。

ス「ちなみにスケットダンスもパロディや元ネタとなった作品も多いからな。」

神「私、カンだけど、『助斗壇』ってなんかいそうな気がするネ！」

ス「ほう、神楽はそれだと思うのか。」

神「スイッチの言ったようにスケットダンスと絶望先生って、元ネタとなった作品をちよっと面白みにしてしまう共通点がアルね。」

ス「確かにそうだ。『2人はナーバス』の主人公像は子供向きとは

思えない設定にしてあるからな。」

神「だから作者もそれに対抗して、この名前をつけたかもしれないアル！」

ス「じゃあそれにするか。」

神「じゃあ青にするネ！」

――――

可符香「神楽ちゃんが選んだのは違うね。」

ボッスン「何、そうなのか!？」

新八「でも神楽ちゃん、もうすぐセットしますよ!」

銀時「たぶん、神楽は終わったな。」

――――

青「じゃあ青を置くアルよ!」

神楽は青の玉を台座に置こうとする。

カチッ

置いた。

男ナレ「神楽、絶望先生のキャラと全く違う答えを解答! 果たして

!?
」

ブーッ

不正解

神「違うアルか〜!」

そして床が開き、

パカッ

神「わあっ!」

神楽は奈落の底へ・・・。

女ナレ「神楽さん、失格です。」

~~~~~

可符香「やったあ、これで相手もあと1人!」

新八「神楽ちゃん。」

男ナレ「神楽、いろいろ考えて青を選んだものも無念にも落下！脱落。」

神楽がいなくなったので洞窟が開く。

残りは2分を切ろうとする。

ス「あとはオレだけか。」

スイッチはパソコンを置いて、洞窟に入る。

と、なぜかボードとペンまで持って行く。

スイッチは心の中で考えた。

ス（思い出したら、確か糸色チルって、いたような記憶があるな。確か絶望先生の親族ではなかった気がする。これは思い出すのが遅かった。神楽には申し訳ない。オレの記憶を思い出せるまで待った方がいいと。）

神楽を脱落させてしまったことを少し後悔しているようだ。

――――

ボッスン「スイッチ、何考えているかわかんねー。」

ヒメコ「しゃべらんからなー。」

――――

そしてスイッチは赤の玉を取った。

――――

可符香「あ、あれあってる。」

ボッスン「ホントか!？」

ヒメコ「じゃあスイッチ、正解するねん!」

――――

スイッチは青の玉をよけて、赤の玉を台座に置こうとする。

カチッ

置いた。

男ナレ「スイッチの選択は果たして!？」

ピンポーン

正解

そしてタイマーが止まる。1..07

――――

ボッスン「よし！とりあえず3問解けたな！」

新八「この後、何があるんでしょう。」

――――

解説・糸色チル 痴漢冤罪に遭った日系フランス人。ちなみ糸色家とは全く関係ない。

そしてモニターにフアラ男が現れる。

フアラ男「いやー、おーつかーれさーん。色々とあったけどなんとか3問解いたね。スイッチ、落ちていった2人にいろいろとフォローするの疲れた？」

とするとスイッチはボードに何か書く

『別に疲れてはいない。むしろスケツト団との絡みが多かったので、フォローには慣れていた。』

ファラ男「あつ、そうか。スイッチはしゃべらないんだったね。」

これからスイッチはファラ男像を獲得するための最後の難関に挑む。

果たしてファラ男像を獲得できるか・・・。

## ジャンプチーム 洞窟の間 その3

見事、洞窟の間で3問の問題を正解できたジャンプチーム。  
残っているのはスイッチのみ。

ここからはファラ男像獲得のための試練に挑む。果たしてファラ男像を獲得できるか・・・。

男ナレ「ここからは、黄金のファラ男像を獲得するための最後の難関、石版の試練！

これから挑戦者は、漢字石版パズルに挑戦。石版は第1と第2の洞窟で3枚ずつ、第3も洞窟で4枚手に入る。制限時間内に合計10枚の石版を並べて、3文字の言葉を3つ作ることができたらクリア。但し1枚はダミーとなっている。制限時間は1分30秒。」

そして第3の洞窟の扉が開く。

ファラ男「それでは、石版の試練スタート！」

石版の試練 開始

ピーー

カウントダウンが始まる。

そして4枚の石版が出てくる。

スイッチはそれを取って、外へ出る。



そして石版パズルの所へ向かう。

出てきた10枚の石版（1枚はダミー）

足・二・半・気・青・前・人・過・才・不

スイッチは考える。

まず、『不人気』を入れる。

次に『青二才』を入れる。

と、ここでスイッチがあることに気づく。

残りので3文字熟語が作れないとわかる。

改めて考え直す。

まず『不人気』を戻して考える。

女ナレ「残り1分です。」

—————

サポートルーム

ヒメコ「スイッチ、しゃべらんから何考えているかわからへんわ。」

とするとシノが、

シノ「あれは『過不足』じゃないのか？」

タカトシ「えっ、そうなんですか。」

タカトシはシノに言う。

――――

色々考えたスイッチは何やら思いうかぶ。

『半人前』ができるとわかり、それをセットする。

そして残りのを見て、最後は『過不足』と確信。

それをセットする。

そして・・・、

カチッ

ボタンを押した。

ピンポンピンポーン

見事クリアした。

女ナレ「石版の試練、成功です。おめでとうございます。」

残りは38秒。

――――

ボッスン「よっしゃあ！クリアだ！」

ヒメコ「さすがスイッチやな。」

ジャンプチームは大喜び。

――――

スイッチはパソコンを再び持つ。

ス「冷静に考えれば、わかる問題だったな。」

男ナレ「スイッチ、制限時間を余裕に残して、石版の試練を見事クリア！」

そして石版パズルが開き、ファラ男像が出てくる。

スイッチはファラ男像を手に取り、

ス「これがファラ男像か。オレ的には、動物の象が出るかと思った。」

ファラ男像でボケる。

――――

ヒメコ「アホか！あんな箱に象入れるわけないやろ！」

ヒメコはツッコむ。

「――――」

男ナレ「最後はスイッチの活躍でジャンプチーム、ファラ男像1体獲得！」

続いてはマガジン・サンデーチームが洞窟の間に挑む。

## マガジン・サンデーチーム 洞窟の間 その1

次はマガジンサンデーチームが洞窟の間に挑む。

挑戦するのは天草シノ・風浦可符香・三千院ナギ。

責任感のあって成績優秀な生徒会長・シノに石像の間をクリアした  
ポジティブ少女・可符香・そしてオタクで飛び級で高校生というナ  
ギのまさに超優秀？なメンバー。

果たしてフアラ男像を獲得できるか・・・。

3人は部屋に入る。

可符香「私たちも洞窟の間に挑むんだね。」

シノ「ジャンプチームとのポイントが逆転された。ここは私たちも  
チームもクリアしないと・・・。」

ナギ「とにかくこれを開けるぞ。」

ナギは『ここ開けて』と書かれたフタを開ける。

モニターが出てくる。

フアラ男が現れる。

フアラ男「フアーラフアラフアラフアラ！なんかこのメンバー、あ  
る意味最強な気がする。」

ナギ「それということなのだ？」

ファラ男「だってシノちゃん、成績学年1位で生徒会長で真面目だし、ナギも飛び級で高校生だし、ある意味穴がほとんどないに近いよ。」

シノ「それはうれしい言葉だな。」

ナギ「でも、可符香だけは普通の高校生だぞ。」

ファラ男「可符香はみんなに元気をくれそうなムードメーカーということで。」

可符香「ファラ男さんにそう言われるとうれしいです。」

可符香はにっこりと笑う。

ナギ「むしろ、可符香がいると逆に不安になりそうなのだ。」

ナギは可符香をうさんくさそうな目で見る。

そしてファラ男との会話が終わり、

アイヤーホイヤー

チャレンジ開始

シノ「もう始まったようだ。」

ここからはシノ↓シ、可符香↓可、ナギ↓ナと省略します。

そしてモニターに10…00と表示され、

ピーーーー

カウントダウンが始まる。

ナ「早く問題出るのだ。」

そして問題が出る。

女ナレ「第1問。次のうち、漫画『けいおん!』で登場回数が最も多かったキャラはどれでしょう？

ちなみに現在4巻まで発行された分として数えた分で、現在連載されている大学編は数えません。」

そして1つ目の洞窟の扉が開く。

可「これ、誰が行く？」

シ「これは私が行く。私の中の人がいけいおんに出ていたからな。」

ナ「そうか、じゃあ行くのだ！」

シノは洞窟へ入る。

シノが入った後、洞窟が扉が閉まる。

ナ「選択肢は何なのだ？」

シノはモニターに書かれている選択肢を見る。

シ「赤が『平沢唯』、青が『秋山澪』、黄色が『田井中律』だ。」

ナギはボードに選択肢を書く。

可「これそのまま考えたら、主人公の唯ちゃんが多いんじゃないの？」

シ「いや、TOREの問題にこういう問題が出るということは、そんなストレートな答えではない気がする。」

ナ「それは確かに・・・、シノの言うとおりだ。主人公がそのまま答えだったら問題にはしない気がするな。」

シノの考えにナギは納得する。

――――

サポートルーム

タカトシ「会長、いい考えしますね。」

ハヤテ「これは間違えずに正解できるじゃないでしょうか？」

――――

可「じゃあ正解と成りうるものは、澪ちゃんか律ちゃんってこと？」



ナ「シノ、確か漣は左利きだったはずだな。」

シ「確かそうだったはずだ。」

ナ「原作者は漣と同じ左利きと聞いたことがある。ということは原作者のお気に入りだから漣を多く描いているんじゃないのか？」

ナギの考えにシノは、

シ「いや、漣は作者のお気に入りだったとしても、漣は目立たない方でいたいからベースを選んだと聞く。そう考えれば、漣は自然と登場回数は少なくなる気がすると思う。」

可「じゃあ、ということは律っちゃん？」

ナ「でも確かに律はありえそうな気がするのだ。唯と漣に比べて人氣は劣るが、登場キャラの中では結構キャラが濃いからな。どうでもいい所で登場しているという場合もあるしな。」

シ「そうそう、私もけいおんキャラでは律が1番目立っている気がする」と考えていた。」

シノたナギの考え方は見事に重なっていた。」

可「じゃあ1番多いのは律っちゃんだね。」

ナ「じゃあシノ、早く律を選ぶのだ。」

シ「ああ、律だな。律は黄色だったな。じゃあセットするぞ。」

シノは黄色の玉を真実の台座に置こうとする。

カチッ

置いた。

男ナレ「無駄のない考えで、シノは黄色の律を選択！果たしてシノらの選択は正しいのか！？」

ピンポーン

正解

シ「正解か。」

ナ「シノの意見はどうやら正しかったようだな。」

可「やったあ、1問目正解！」

解説 平沢唯 1265回

秋山 澪 1185回  
田井中律 1435回

4巻までの調べ。

――――

タカトシ「よしっ、会長やりましたね！」

ハヤテ「順調な滑り出しですね。」

羽美「このメンバー本当にいいんじゃない？」

サンマガチームは賞賛する。

――――

正解したことにより、3枚の石版が現れる。

そして扉も開く。

シノは石版を取り、外へ出る。

ナ「いいぞいいぞ！」

シ「まだ1問正解しただけだ。油断するな。」

果たして2問目も無事に正解できるか……。



## サンマガチーム 洞窟の間 その2

洞窟の間に挑戦中のサンマガチームのシノ・可符香・ナギ。

1問目の問題を正解し、2問目の問題を解くところだ。  
時間は残り6分40秒となった。

シノは3枚の石版を持って、外に出たところだ。

ナ「よし、次の問題は・・・。」

女ナレ「第2問。次のうち、ドラマCD版『会長はメイド様!』で、鮎沢美咲を演じた声優は誰でしょう? ちなみに2007年から2008年に発売されたドラマCDが対象です。(以降はアニメ版の声優)」

そして2番目の扉が開く。

ナ「私が行くのだ。」

可「じゃあ早く行って。」

ナギは洞窟に入る。

洞窟の扉が閉まる。

ナギはモニターの選択肢を見る。

シ「ナギ、選択肢に何と書いてある?」

ナ「赤が『豊口めぐみ』、青が『小林沙苗』、黄色が『平野綾』なのだ。」

シノはボードに選択肢を書く。

シ「これはちよつと難しいな。」

可「これ、平野綾ちゃんはどうかかな？」

ナ「あーやか・・・、でもあーやの場合、なんか違う気がするな・・・。」

シ「なぜ違うと考える？」

ナ「確かにこの時期（2007年）あーやは結構声優業の恵まれていた時期だが、もしあーやがドラマCDで美咲を演じていたら、もっとこれについて話題になっていたような気がする。しかし、そういう感じがあまりなかった。」

可「そうだと思うんだね、ナギちゃんは？」

ナ「ああ。」

シ「いうことはナギは、メグさんか、小林沙苗さんのどれかというところを考えるのだな。」

可「ナギちゃん、美咲さんのキャラってどんなものだった？」

ナ「確か男嫌いで男子にはとても規律の厳しいところがあったはずだ。」

シ「ということは、ちょっと強気なキャラを演じそうな声優かもしれないな。」

可「沙苗さん、強気なキャラ演じる機会ってあったかな？」

ナ「彼女はああいいう強気でクールなキャラを演じる機会は時折あった気がするな。だからこういうキャラを演じるということもありうるのだ。」

可「もう1人のメグさんも結構クールなキャラ演じること多いよね？」

ナ「確かに、彼女もこういう役は演じられるのだ。」

シ「一体正解は何なのか……。」

男ナレ「答えが分かれ、迷う3人。果たしてどちらを選ぶのか!？と、ここでナギが何か思い当たる節を見つける。」

ナ「待てよ、確か私、前回DEROに出た時、VOMICの『めだかボックス』のめだか役がアネキと聞いたことがある!めだかはクールな生徒会長だからな。」

可「そうなんだ。」

シ「しかし、どちらも生徒会長だから声優が同じわけというものではないぞ。」

ナ「私もそう思う節はある。しかし、アネキの方が美咲の声になんか合う気がすると思う。」

可「じゃあそれにしたら。」

ナ「まだ確信を持ったわけではないが、赤にするのだ！」

時間が残り4分になる所で、ナギは赤の玉を台座に置こうとする。

カチッ

置いた。

男ナレ「ナギの推測は果たして合っているのか!？」

ブーッ

不正解

ナ「しまった・・・。」



パカッ

ナ「わあっ！」

床が開き、ナギが落ちた。

女ナレ「ナギさん、失格です。」

可「ナギちゃん、落ちちゃった？」

シ「そのようだな。」

――――

サポートルーム

ハヤテ「ああ、お嬢様。」

ハヤテは残念がる。

――――

男ナレ「三千院ナギ、推測で赤を選ぶもあえなく奈落の底へ落下！  
脱落。」

ナギがいなくなったことで第2の扉が開く。

可「私行くよ。」

可符香が洞窟へ入ることになった。

可「じゃあ、青と言うことにしない？」

可符香は候補となった小林沙苗を正解と考える。

シ「それでいいのじゃないか？」

可「うん、あーやさんが演じたということは考えにくいから、じゃあ青の小林沙苗さん行きますよー。」

可符香は赤の玉をよけて、青の玉を台座に置こうとする。

カチッ

置いた。

可「多分合っているよ。」

ピンポーン

正解

シ「それだったみたいだな。」

――――

タカトシ「合ってたな。」

ハヤテ「でもお嬢様はいなくなりました。後はお嬢様無しで問題に答えないと。」

カエレ「彼女の不在で次の問題にどう影響するかね・・・。」

――――

そして3枚の石版が出てくる。同時に扉も開く。

可「よし、石版ゲットね！」

可符香は石版を取り、外に出る。

可「ナギちゃん分まで頑張ろうね。」

シ「そうだな。」

時間が残り3分になる。

女ナレ「第3問。次のうち、『みつどもえ』で実際に出てくるキャ

ラクターはどれでしょう？」

そして3つ目の扉が開く。

可「どっちが行く？」

シ「私が行くか。」

シノが行くことに決まった。

シノは洞窟に入る。扉が閉まる。

選択肢を見る。

シ「赤が『鈴木裕樹』で、青が『松坂桃季』<sup>まつざかとおり</sup>、黄色が『千葉雄大』<sup>ちばゆうだい</sup>だ。」

可符香はボードに選択肢を書く。

可「これって3人とも戦隊ものに出ていた俳優さんの名前じゃない？」

シ「そうなのか。」

シノはそれを聞いてほうとした感じになる。

男ナレ「選択肢は戦隊シリーズでレッドを演じた俳優ばかりだが、この中に1つだけ同名のキャラが『みつどもえ』に登場する！果たしてそれはどれか！？」

シ「どれか・・・、私みつどもえをあまり知らないからわからない。」

可「ナギちゃんがいたら少しわかっているところがあったかもしれないけど、いなくなっちゃったし、私たちで答えるしかないよ。」

シ「鈴木裕樹はこの中だったら、1番つけられそうな気がするが・・・。」

可「雄大や桃季って、ちょっと考えるの難しい気がするからね。」

2人は悩む。時間も過ぎていく。

とここで可符香が何かひらめく！

可「ちょっと待って、なんか思い当たる節がある気がする。」

シ「何がだ？」

可「名前はわからないけど確か千葉というキャラっていた気がするよ。」

シ「本当か？」

可「前、（藤吉）晴美ちゃんにみつどもえのこと少し教えてもらった。キャラを紹介してもらった時、千葉と聞いたことがある気がする。」

シ「でも名前はわからないだろう？名前が別なこともありえるぞ。」

可「でも鈴木とか松坂は言ってなかった気がするなあ。」

シ「じゃあお前の言う通り、黄色にしてみよう！」

可「早く置いて、時間1分切ってるよ。」

シ「じゃあ黄色を置く！」

シノは黄色の玉を台座に置こうとする。

カチッ

置いた。

男ナレ「シノ、可符香の友人の言葉を信じ、黄色を選択！果たしてシノの運命は！？」

ピンポーン

正解

シ「合ってたか……。」

シノはほっとする。

可「やったあ！」

タイマーが残り48秒で止まる。

解説・千葉雄大 丸井三姉妹の同級生の男子。キャッチフレーズは「健康優良男児」

――――

改蔵「2人残ったか。」

タカトシ「会長助かってよかったです。」

サンマガチームは一安心する。

ボッスン「2人残ったか……。」

古市「もし、成功されたら逆転されるぞ。」

神楽「失敗するように祈るアル！」

ジャンプチームは逆転されることに危機感を持つ。

――――

そしてモニターにファラ男が現れる。

ファラ男「おーつかーれさーん！見事ナギ無しで2人生き残りましたねー。」

シ「ナギがいなくなったことには私たちも不安を感じたな。」

ファラ男「可符香って、ただしゃべっているだけで何も活躍しそわない気がしたけど、最後いい助言をシノちゃんにあげたねー。」

可「はははファラ男さん、ありがとうございます。」

可符香はにっこりとした表情で言う。

さあ2人はファラ男像を獲得するための石版の試練に挑む。

果たしてクリアできるか……。



サンマガチーム 洞窟の間 その2 (後書き)

ナギが豊口めぐみを「アネキ」と言っているのは、ナギの中の人  
が彼女の事を「アネキ」と言っていたので、こう呼ぶことにしました。

### サンマガチーム 洞窟の間 その3

見事、洞窟の間の問題を3問正解したサンマガチーム。  
残ったのはシノと可符香。

果たして石版の試練でファラ男像獲得となるか・・・。

男ナレ「さあ2人は難関、石版の試練に挑む！果たしてファラ男像  
獲得となるか！？」

ファラ男「さあ心の準備はよろしいですか？」

シ「準備は整った！」

可「もうバッチリ！」

ファラ男「石版の試練、スタート！」

石版の試練 開始

ピーーーー

1分30秒のカウントダウンが始まる。

洞窟から4枚の石版が出てくる。

シノは石版を手取る。

シ「よし早く出るぞ！」

シノは石版を持って、急いで洞窟から出る。

そして2人は石版パズルの所へ向かう。

3文字の言葉を3つ作れ（ただし1枚はダミー）

工・他・能・芸・小・気・事・細・天・人

可「まずは・・・『芸能人』かな？」

可符香は『芸能人』と置く。

シ「これ、『小細工』と置けるのではないか？」

可「ホントだね。」

2つ目に『小細工』と置く。

とシノは残りの石版を見て、何か違和感を感じる。

シ「天気があるが、これでは何か足りないな。」

とシノはパズルに置かれた石版を見て、

シ「この『能』は『能天気』じゃないのか？」

可「そうなの？」

シノは『芸能人』から『能』を取り、3つ目に『能天気』と入れる。

可「ということは後は・・・？」

シ「残りのから見てみると・・・『他人事』だな！」

1 1つ目の石版の置き場所に『他人事』と入れ、

1 他人事

2 小細工

3 能天気

シ「これだ！」

カチッ

シノはボタンを押す。

ピンポンピンポーン

可「やったあ！」

シ「『芸』がひっかけたと早く気づいてよかったな・・・。」

残り48秒で解いた。

――――

サポートルーム

タカトシ「会長すばらしいです！」

拍手をするタカトシ。

ハヤテ「本当にすごいですね！」

羽美「ということはこれでまた私たちのチームが逆転ということ？」

改蔵「そうみたいだな。」

ボッスン「うわー、確かに逆転されたな。」

新八「これは悔しいですね。」

サンマガチームのファラ男像の数がジャンプチームの数を逆転したことに不安感を抱くジャンプチーム。

銀時「でもまだ負けたわけじゃないだろ？」

銀さんはまだ負けたわけではないと悟る。

邦枝「そうね。」

邦枝は返答する。

――――

女ナレ「石版の試練、成功です。おめでとうございます。」

石版パズルが開き、ファラ男像が出てくる。

2人はファラ男像を取る。

シ「ナギにも感謝しないとな。」

可「そうね。ナギちゃん、私たちががんばったよ。」

男ナレ「サンマガチーム、最後はシノの活躍でファラ男像2体ゲット！」

第3ステージを終え、ここまでのファラ男像の数はジャンプチーム4体、マガジン・サンデーチーム5体でサンマガチームがリード。

しかし次の第4ステージは逆転が可能な直接対決。勝負の結果は次のステージで決まる。

果たして勝つのはどのチームか・・・。

## 崖の間 その1

第4ステージは、崖の間。

巨大な部屋に床はなく、先の見えない奈落の底。

そして壁には心もとないわずかな道。

この部屋で一体何が起るのか・・・。

挑戦するのは、ジャンプチームから、ボッスン・ヒメコ・男鹿辰巳（十ベル坊）・邦枝葵。

マガジン・サンデーチームから、津田タカトシ・天草シノ・綾崎ハヤテ・三千院ナギ。

左側のドアからジャンプチーム、右側からサンマガチームの面々が入ってくる。

ボッスン「うわっ、何だこの部屋、下かなり深いぞ。」

ヒメコ「ホンマや。落ちたらひとたまりもないで。」

邦枝「確かに落ちたら大変ね。」

男鹿「ベル坊、絶対勝つぞ！」

ベル坊「たぶ！」

ハヤテ「お嬢様、この高さすごいですよ。」

ナギ「確かにすごい高さなのだ。」

シノ「下を見ると本当に怖いな・・・。」

タカトシ「会長、このステージ大丈夫ですかね・・・。」

と、両チームが顔を合わせる。

ボッスン「あれ？お前らもこの部屋か？」

ナギ「どうやらそうみたいなのだ。」

邦枝「ということは対決ってこと？」

ハヤテ「そうみたいです。」

と、モニターにフアラ男が現れる。

フアラ男「フアラフアラフアラフアラ、ようこそ崖の間へ！」

ヒメコ「こんな高いところでこれから何をするんや？」

フアラ男「それは後で説明しましょう。そして皆さんの中央に見えるのは宝箱です。」

確かに崖の中央に宝箱がある。

男鹿「すぐ取れる所にあるじゃねーか。」

フアラ男「そう、すぐ届く場所にありますね。黄金のフアラ男像を手に入れたければ、崖を進んでちょうだい。」



ボッスン「行かなきゃ取れないってことだろ？じゃあ行かねえと。」

ヒメコ「こんな崖ぐらいでへこたれんわ！」

ボッスンとヒメコは先に行く。

男鹿「あいつらに続いてオレたちも行くぞ、邦枝！」

邦枝「わかつているわ。」

男鹿と邦枝もボッスンたちについて行くように行く。

シノ「津田、私の右腕なのだから、お前が先に行くのだ！」

タカトシ「は、はい・・・。」

タカトシを先頭にシノは一緒に行く。

ハヤテ「お嬢様、僕たちも一緒に行きましょう。」

ナギ「私をしっかり守るのだぞ。」

シノたちについていくように行くナギとハヤテ。

タカトシ「これ、本当に怖いですよ！」

ボッスン「下見ると本当に怖く感じるな・・・。」

8人が崖を進んでいくとその時、

ゴゴゴ・・・

宝箱のある所の通路から壁が出てきて行き場所をふさいだ。

ボッスン「うわっ、壁が出てきてふさがっちゃったぞ！」

ボッスンは叫ぶ。

フラ男「さあ皆さん、宝が欲しかったら、足元にある紋章を1人ずつそれぞれ踏んでください。」

挑戦者の足の下には確かに紋章がある。

男鹿「これを押すのか？」

シノ「こ、これを押すということか・・・。」

シノは崖の高さにおびえている。

8人は紋章を踏む。

すると・・・

アイヤーホイヤー

スタート音が流れる。

ハヤテ「もう始まったんですか!？」

その時、

ドドドドド・・・

壁が現れる。

ハヤテ「壁が出てきました。」

4人のチームが2人に分断されるように現れる。正面から見た時の配置。

|         |      |    |      |   |    |    |   |     |
|---------|------|----|------|---|----|----|---|-----|
| ジャンプチーム | 左側   | 左  | 邦枝   | 右 | 男鹿 | 右側 | 左 | ヒメコ |
| 右       | ボッスン |    |      |   |    |    |   |     |
| サンマガチーム | 左側   | 左  | タカトシ | 右 | シノ | 右側 | 左 | ハ   |
| ヤテ      | 右    | ナギ |      |   |    |    |   |     |

フアラ男「まずは皆さんにこの部屋の醍醐味を味わっていただきましょう、出てきてちょうだい！」

フアラ男が言う・・・、

ゴゴゴゴゴ・・・

男鹿「な、何だ？」

挑戦者の後ろから一部のブロックが現れる。

ナギ「びっくりしたな、これは・・・。」

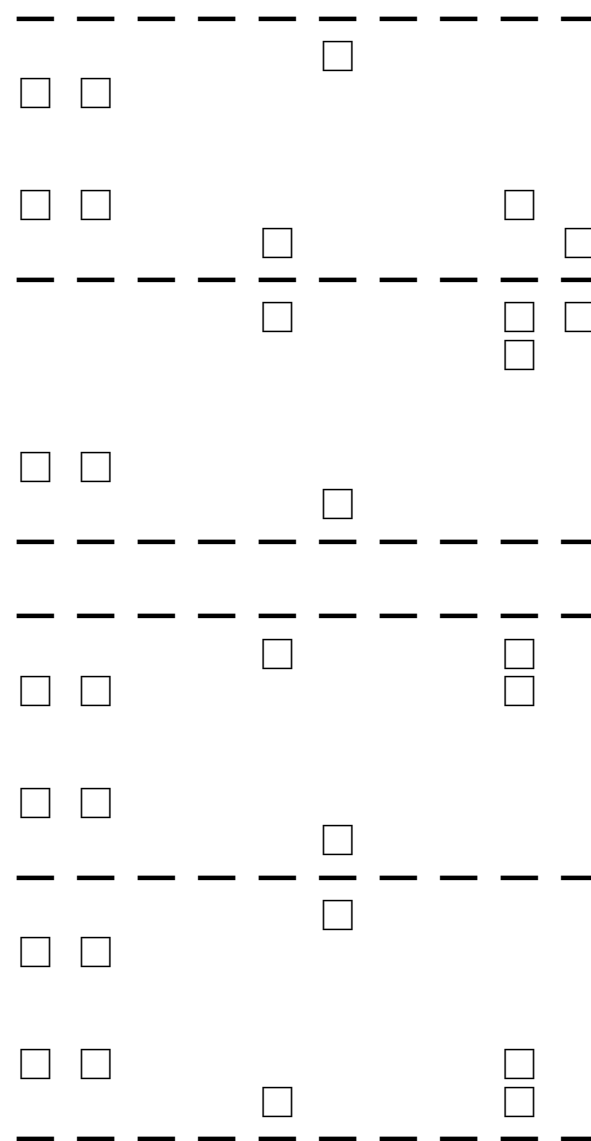
シノ「こ、これは私も驚いた・・・！」

男鹿 邦枝

ボッスン ヒメコ

タカトシ シノ

ハヤテ ナギ



男ナレ「この部屋で黄金のファラ男像を獲得できるのはどちらか1チーム。1人ずつ順番にクイズに答える。答えている間は背後から、ブロックが押し出され、挑戦者を突き落とそうとする。正解すればブロックは止まるが、正解できないとやがて押し出され、落下する。パスは1チーム1回のみ。このステージで1人につき獲得できるファラ男像は2つ。ジャンプチームはサンマガチームに1ポイント負けているため、逆転勝利の可能性は十分ある！」

ボッスン「いうことは、オレたちのチームも逆転のチャンスはあるってことだな？」

ファラ男「そういうことです。」

ボッスン「よし、逆転するぞ！」

ヒメコ「ああ！」

ナギ「絶対逃げ切るのだぞ、ハヤテ！」

ハヤテ「はい！」

フアラ男「それでは皆さん、がんばってくださいね、バイバーイと。」

モニターからフアラ男が消える。

果たして勝つのはどちらか・・・。

崖の間 その2

崖の間で全てが決まる。

果たして勝利を手にするのはどのチームか・・・。

今、始まる・・・。

ここからは、ボッスン↓ボ、ヒメコ↓ヒ、男鹿↓男、邦枝↓邦、タカトシ↓タ、シノ↓シ、ハヤテ↓ハ、ナギ↓ナと省略します。

ちなみにブロックの出てくる位置は番号で示します。

|   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
|   | A | B | C | D | E | F |
| 1 |   |   |   |   |   |   |
| 0 |   |   |   |   |   |   |
| 9 |   |   |   |   |   |   |
| 8 |   |   |   |   |   |   |
| 7 |   |   |   |   |   |   |
| 6 |   |   |   |   |   |   |
| 5 |   |   |   |   |   |   |
| 4 |   |   |   |   |   |   |
| 3 |   |   |   |   |   |   |
| 2 |   |   |   |   |   |   |
| 1 |   |   |   |   |   |   |

アイヤーホイヤー

チャレンジ開始

## 1 巡目

女ナレ「最初の問題は、イラスト変換クイズです、」

例題 履物

さし立派せそ

この場合、『す』が「立派』になっているのでスリッパとなる。

女ナレ「それでは、邦枝さんへの問題です。このイラストは何を表しているのでしょうか？」

F-2・F-3・A-6のブロックが出てくると予告。

入れ物

64 or 5

邦「えっとこれは・・・。」

邦枝は考える。

男「出てくるな。」

ブロックの出現につぶやく男鹿。

邦「入れ物ということよね？」

F－1・A－9・A－10のブロック

邦「むし・・・、むしご・・・、虫かご！」

ピンポーン

ヒ「いいで、葵！」

女ナレ「正解です。答えは、6（む）と4（し）と『か』（or）と5ということで虫かごでした。」

男「まだ余裕だな。」

女ナレ「ヒメコさんへの問題です。何を表しているのでしょうか？」

D－1・F－3・A－4・F－7・F－8

有名人のニックネーム

わらわらわらわら

わらわらわらわら　　ちゃん

ヒ「何やコレ!？」

仰天するヒメコ。

考えるが何も思いつかない。

A－9・A－10・B－9・B－10



ヒ「うわっ、出てくるわ！」

足を上げるヒメコ。

ボ「さっきのと同じ考え方でいいんだよ！」

ヒ「さっきのとやて？はちわら？」

ブーッ

B—1・B—4・B—8

ブロックは出続ける。

ヒ「わらや？」

ブーッ

ヒ「もうアカン！パス！」

パスをした。

ボ「ちよつと、オイ！」

ボッスンは苦情するような声を上げる。

女ナレ「ちなみにただいまの問題の答えは、8つの「わら」とちやんで、『ヤワラちゃん』でした。」

ヒ「何や、そういうことやったんか……。」

ボ「何やってんだよ……、もうパス使えねーぞ。オレたちのチーム。」

ヒ「すまんボッスン。」

女ナレ「ジャンプチームはパスはもう使いきました。続いて、シノさんへの問題です。何を表しているのでしょうか。」

B—1・C—5・E—2・F—2

元スポーツ選手

ここに春夏秋冬

シ「春夏秋冬……。」

シノはなるべく下を見ずに問題を方を集中して見る。

タ「会長早く！ブロックが……！」

シ「わかってる。スポーツといってもいろいろあるからな。」

C—1・C—2・D—2

ブロックが出続ける。2人は体制を変える。

シ「春夏秋冬ということは四季……、KONISHIKI！」

ピンポーン

女ナレ「正解です。答えは、春夏秋冬を言い換えると『四季』になるので、KONISHIKIでした。」

「いいですよ、会長。」

シ「四季と気づくのがちよつと遅かったが・・・。」

女ナレ 「続いて、ナギさんへの問題です。何を表しているのでしょうか？」

$$\begin{array}{c} \text{A} \\ \text{---} \\ 1 \\ \bullet \\ \text{A} \\ \text{---} \\ 2 \\ \bullet \\ \text{A} \\ \text{---} \\ 7 \\ \bullet \\ \text{F} \\ \text{---} \\ 4 \end{array}$$

動物



☆

☆

☆

☆

ナ「星？」

ナギは考える。

ナ「おつとスター？ スターおつと？」

ブーツ

B—1・A—7・E—8・F—5

ハ「お嬢様、あれですよ！」

ハヤテは叫ぶ。

ナ「おっとほし？（ブーツ）何だというのだ？」

A—8・A—10・C—1・D—10

ブロックは出続ける。

ナ「パス！」

パスをした。

ハ「ええええ！？」

タ「ちょっと！」

ハヤテとタカトシはナギに抗議する。

ナ「あれは一体なんだというのだ！？」

女ナレ「ただいまの問題の答えは、夫が星<sup>せい</sup>でできているので、オットセイでした。」

ナ「そうか、『せい』もあったのか……。」

ああという顔をするナギ。

ハ「でもこれでオレたちのチーム、パス使えなくなったぞ！」

ナ「申し訳ない。」

ナギは謝罪する。

現在のブロック状況

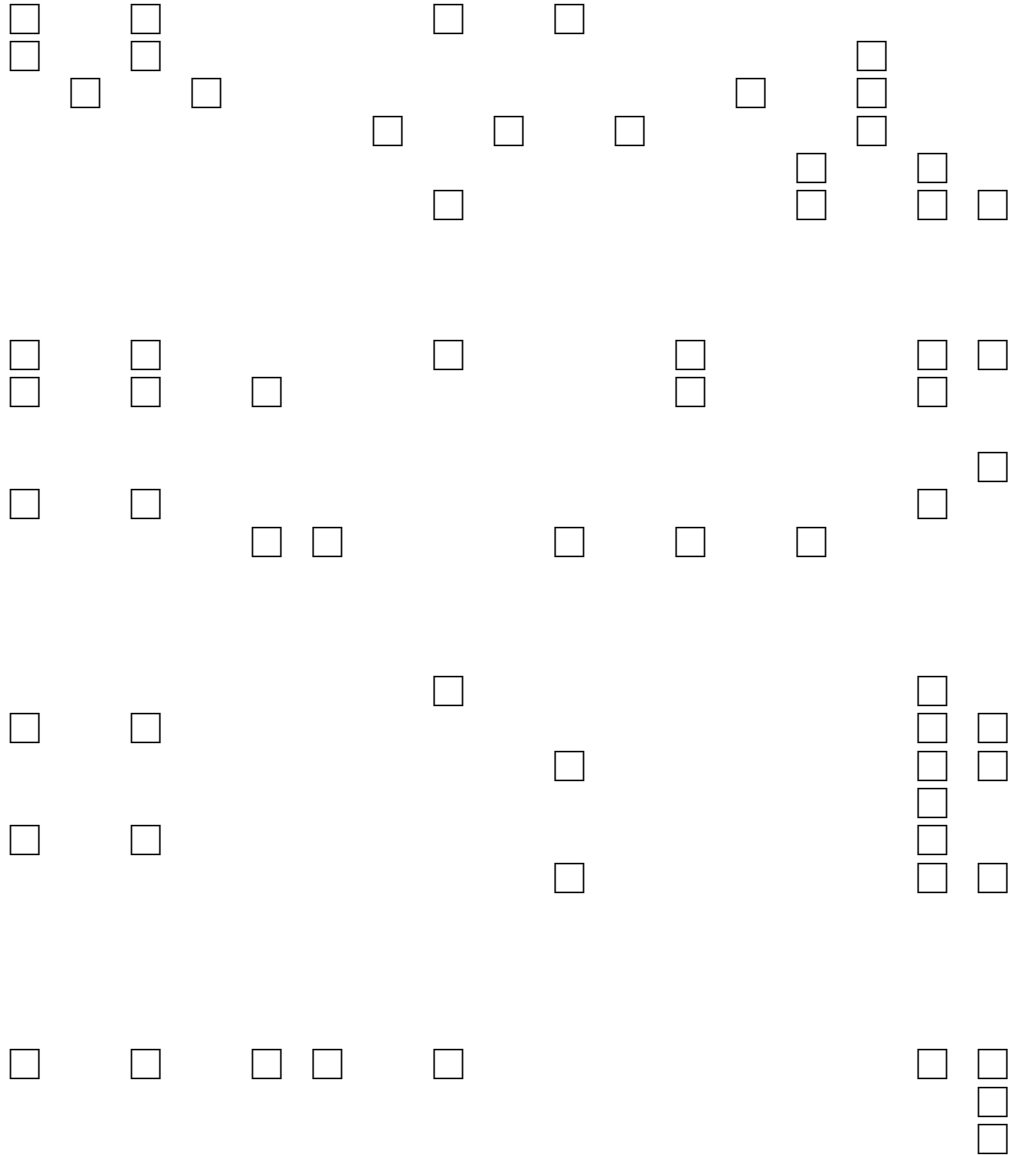
邦枝・男鹿

ヒメコ・ボッスン

タカトシ・シノ

ハヤ

テ・ナギ



□  
□

両チーム、パスを使い切る。

続いて2巡目は次回に続く。

## 崖の間 その2（後書き）

イラスト変換といっても、文字を使っただけのシンプルなクイズです。

こんな程度のしか作れなくてすいません・・・。

それからブロック書くのって結構しんどい・・・。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7168x/>

---

第1回 アニメキャラ限定 謎解きバトルTORE!

2011年11月19日13時15分発行